

平成 22 年度事業報告書

1. 学校法人の概要

① 建学の精神

【建学の精神】

創立者高山紀齋の進取の気性、開拓精神によって本学は創立され、それを受け継いだ建学者血脇守之助は、学問のみならず歯科医学及び歯科医療における人本主義の教育理念を確立するために心血を注いだ。すなわち血脇は、自身が唱えた本学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」という言葉に集約されるように、歯科医師としての知識や技術だけでなく、社会性、国際性を身につけ、人間的に優れた良識豊かな歯科医師を養成することの重要性を強調して、教育の原点ともいえる人本主義を掲げていたのである。

この考えは教育面での学生一人ひとりを大切にする指導理念となり、本学の建学の精神として、教育・研究・臨床のそれぞれの分野で 100 有余年の間、代々に引き継がれて現在に至っている。

【将来に向けてのビジョン】

人間性豊かな歯科医療人養成の社会的要請に応えるべく、建学の精神(理念)を継承しながら、これからの社会的なニーズの中で歯科大学としての使命を果たすために、高機能で先導性のある歯科大学を目指し、その環境において有為な人材育成を行う。その一環として平成 22 年に創立 120 周年を迎えたことを契機に、記念事業として建学の地、水道橋にメインキャンパスを移転する計画を進めている。

② 学校法人の沿革

明治 23 年	1 月 (1890)	高山紀齋芝区伊皿子町(現港区)に高山歯科医学院創立
明治 32 年	12 月 (1899)	高山紀齋 血脇守之助に学院の全てを委譲
明治 33 年	2 月 (1900)	高山歯科医学院を東京歯科医学院に改称、同時に神田小川町の東京顕微鏡院内に移転
明治 34 年	2 月 (1901)	東京歯科医学院の校舎を神田三崎町に移転
明治 40 年	9 月 (1907)	東京歯科医学専門学校設置認可
明治 41 年	9 月 (1908)	東京歯科医学専門学校附属病院開院
大正 9 年	3 月 (1920)	血脇守之助の寄付により財団法人認可
昭和 4 年	1 月 (1929)	水道橋校舎新築落成
昭和 21 年	7 月 (1946)	東京歯科大学(旧制)認可
昭和 24 年	9 月 (1949)	東京歯科大学歯科衛生士学校開校
昭和 26 年	9 月 (1951)	財団法人から学校法人への組織変更認可、昭和 27 年 2 月 (1952) 学校教育法により新制東京歯科大学となる
昭和 30 年	1 月 (1955)	東京歯科大学進学課程設置認可
昭和 33 年	3 月 (1958)	東京歯科大学 大学院歯学研究科(博士課程)の設置認可
昭和 42 年	2 月 (1967)	東京歯科大学市川病院、総合病院として認可
昭和 51 年	12 月 (1976)	東京歯科大学歯科衛生士学校は東京歯科大学歯科衛生士専門学校として認可
昭和 56 年	9 月 (1981)	東京歯科大学千葉校舎開校。東京歯科大学千葉病院開院、東京歯科大学病院を東京歯科大学水道橋病院に改称
昭和 62 年	4 月 (1987)	東京歯科大学市川病院を東京歯科大学市川総合病院に名称変更
平成 元年	4 月 (1989)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校千葉校開校
平成 2 年	3 月 (1990)	水道橋校舎(TDC ビル)竣工、4 月 新水道橋病院開院
平成 8 年	10 月 (1996)	東京歯科大学口腔科学研究センター開所式開催

平成12年 1月(2000) 脳科学研究施設(口腔科学研究センター)開所
 平成13年 7月(2001) 東京歯科大学市川総合病院角膜センター・アイバンクビル竣工
 平成14年 3月(2002) 東京歯科大学市川総合病院リプロダクションセンター・放射線棟開所
 平成15年12月(2003) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校、修業年限・教育課程3年制移行承認
 平成17年10月(2005) 歯科医学教育開発センター開設
 平成18年 4月(2006) 東京歯科大学口腔がんセンター開設

③ 設置する学校・学部・学科等 (平成22年5月1日現在)

理事長 熱田 俊之助		
設置する学校	学部・研究科等	設置認可年月
東京歯科大学	歯学部	昭和27年2月20日
〃	大学院歯学研究科	昭和33年3月25日
所在地 千葉県千葉市美浜区真砂1-2-2		
学長 金子 譲		
東京歯科大学歯科衛生士専門学校	歯科衛生科	平成元年3月31日
所在地 千葉県千葉市美浜区真砂1-2-2		
校長 石井 拓男		

④ 役員及び教職員に関する情報

役員については、平成22年5月1日現在で理事8人、監事2人が現員であり、理事の中から常務理事が理事長を含めて4人選任されている。評議員については、同日現在で37人が現員であり、そのうち法人職員からの選出が12名(歯科衛生士専門学校長1名を含む)、本学卒業者からの選出が18名、学識経験者からが7名となっている。

(平成22年5月1日現在)

		定員数	現員数
役員	理事	7~9名	8名
	監事	2名	2名
	評議員	35~40名	37名

(学校基本調査) (平成22年5月1日現在)

	法人本部	東京歯科大学	東京歯科大学 歯科衛生士専門学校	合計
教員	—	309名	6名	315名
職員	4名	※ 953名	1名	958名

※953名のうち559名は附属病院の看護師である。

2. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

① 主な事業の目的・計画

1. 創立 120 周年を迎え、各種記念事業を執り行う。
2. 記念事業の一環として、水道橋移転計画を遂行する。
3. 本法人の健全な運営に資することを目的として、内部監査に係る組織を整備する。
4. 4 年制大学に 2 年以上在学し所定の単位を取得した者並びに医療技術系短期大学を卒業した者を対象とした編入学試験を導入する。
5. 奨学金の新たな取り組みとして、入学時に契約した提携学資ローンの利子について、大学がその一部を 6 年間に渡り学費納入者に補給する「利子補給奨学金」の制度を設置する。
6. 海外姉妹校と、今後の交流の在り方、課題、方向性について話し合う交流会議を開催する。
7. 口腔科学研究センター 研究プロジェクト 8「上皮からみた口腔機能の特異性基盤の解明と疾患制御」が私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に新規採択。

② 進捗状況

1. 記念式典・祝賀会を始めとして記念学術講演会、記念誌編纂、資料収集・保存、記念学生行事など各種事業を執り行った。
2. 水道橋移転計画における新校舎の設計を完了し、建築を開始した。
3. 本法人の内部監査に係る規程を整備し、法人事務局内に内部監査室を設置した。
4. 平成 22 年度編入学試験の結果、3 名入学している。
5. 平成 23 年度学納金を提携信販会社の学資ローンを利用した学費納入者に対しての「利子補給奨学金」制度の運用を開始する。
6. 第 1 学年から第 6 学年までの成績上位者を対象に、海外姉妹校を訪問する「東京歯科大学 elective study」制度を平成 23 年度から開始する。
7. 研究プロジェクト 8 に続いて、研究プロジェクト 9 を平成 23 年度に立ち上げる。

(2) 教育研究の概要

① 教育研究上の基本となる組織に関する情報

本学は、歯学部歯学科、大学院歯学研究科（博士課程）を設置している。また、歯科臨床実習及び臨床研究に関する附属施設として3つの附属病院を付設しているほか、歯科医学教育開発センター、口腔科学研究センター、口腔がんセンター、角膜センターを付設している。

大学等	学部・研究科等	学科	課程等
東京歯科大学	歯学部	歯学科	
	大学院歯学研究科		博士課程
東京歯科大学歯科衛生士専門学校		歯科衛生科	

② 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

(平成22年5月1日現在)

大学等	学部・研究科等	学科	教員数
東京歯科大学	歯学部	歯学科	309名
	大学院歯学研究科		171名
【教員の保有学位】 教員の保有学位としては、博士（歯学）、博士（医学）、博士（薬学）、博士（学術）、博士（農学）、博士（理学）、博士（工学）、修士（日本学）、修士（薬学）、修士（社会科学）、修士（理学）、修士（英文学）、修士（文学）がある。 <p style="text-align: right;">(平成22年11月1日現在)</p>			
東京歯科大学歯科衛生士専門学校	歯科衛生科		6名
【教員の保有学位】 教員の保有学位としては、博士（歯学）、学士（教養）、専門士（医療専門課程）がある。 <p style="text-align: right;">(平成22年11月1日現在)</p>			

③ 学生に関する情報

<東京歯科大学 歯学部>

【入学に関する基本的な方針】

建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、人物・学力ともに優秀で、将来、国民医療に貢献する歯科医療担当者としての能力・適正を十分に有するものを求めている。

1. 医療人としての倫理観や高い人間性を、常に向上心をもって追求しようとする意欲のある者
2. 歯科医学を学ぶための十分な資質と基礎学力を有する者
3. 口腔の健康管理を通じ、国民医療に貢献しようとする意欲のある者
4. 問題解決能力や変革意欲の高い者
5. 他者との協調性を大切にできる者

入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	卒業後進路
138名 (学士編入学10名含む)	880名 1年次 140名 2年次 140名 3年次 140名 4年次 140名 5年次 160名 6年次 160名	824名 1年次 130名 2年次 144名 3年次 135名 4年次 127名 5年次 140名 6年次 148名	125名	臨床研修歯科医 108名 上記以外の者 17名
平成22年5月1日現在			平成23年3月31日現在	平成23年5月1日現在

【卒業後の進路】

歯学部卒業後、歯科医師国家試験に合格した者は、歯科医師法に基づく臨床研修を1年間受ける。卒業生の多くが本学の3病院（千葉病院・市川総合病院・水道橋病院）で研修する。その後、大学院等に進学して研究者の道を志す者、勤務医となる者、開業する者等、その道は様々である。

<東京歯科大学 大学院歯学研究科>

【入学に関する基本的な方針】

歯学研究科では、次のような「研究指導者をめざす学生」ならびに「高度な専門知識を備えた専門職業人をめざす学生」を求めている。

1. 人類の持続的発展に貢献するために強い学術的関心と幅広い視野を持つ人
2. 国際的視野と高度な専門知識・語学力を身に付け、人類福祉の増進に寄与したい人
3. 既成の価値観にとらわれず、自ら問題を発見し、解決しようとする力を備えている人
4. 将来研究指導者または高度専門職業人として国際的に活躍したいという意欲のある人

入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	修了後進路
39名	136名 1年次 34名 2年次 34名 3年次 34名 4年次 34名	163名 1年次 39名 2年次 43名 3年次 39名 4年次 42名	43名 (3年次終了者1名を含む)	就職者 34名 専攻科 1名 上記以外の者 8名
平成22年5月1日現在			平成23年3月31日現在	平成23年5月1日現在

<東京歯科大学歯科衛生士専門学校 歯科衛生科>

【入学に関する基本的な方針】

歯科医療従事者としての能力・適性がある者。

歯科医療従事者の一員として社会に貢献しようとする意欲のある者。

入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	修了後進路
46名	120名	133名	45名	就職 45名
平成22年5月1日現在			平成23年3月31日現在	平成23年5月1日現在

【卒業後の進路】

歯科衛生士国家試験に合格した卒業生が、病院、企業、診療所等へ就職している。

教育カリキュラム

時代の要請に応える ダイアゴナル・カリキュラム

●この表の見かた

ダイアゴナルとは「対角線」を意味します。東京歯科大学のカリキュラムの特長は、学年が上がるにつれて深度が増していくコミュニケーション教育にあります。つまり、下の図の右上がりのラインは、このコミュニケーション教育の深まりを表しています。

1年次 統合型カリキュラム

教養系科目(1年次)

教養系科目は、豊かな教養と深い人間性を養うとともに、歯科医学を理解するために必要な基礎知識の修得を目的としています。

■理科系科目のコース別授業

コース別授業で、専門科目を学ぶ基礎となる知識を着実に身につけます。また、理科・数学のリメディアル教育も実施しており、個々の学習進度に対応する柔軟なカリキュラムとなっています。

■IT環境を活用した学習支援体制

学内に、無線LAN環境を整備。情報科学入門でPCスキルや情報倫理を学習し、充実したIT環境を活用する能力を伸ばしています。また、自学自習のための教育用Webサイトを構築しています。

2年次

専門系科目(基礎-臨床) (2・3・4・5年次)

■統合型科目の積極的な導入

歯科医学の知識と技能を確実に修得するために、各科目の講義・実習で学習する内容を統合し、教養系科目と基礎系・臨床系科目を関連付けて横断的に理解する統合型科目を積極的に導入しています。

3年次

■臨床シミュレーション教育システム

実際の治療技術を学ぶ臨床基礎実習では、コンピュータ支援によるシミュレーションシステムを採用しています。これにより診療の実際(に即した)実習を行うことができ、歯科臨床の技能が十分に身につけられます。

PBL(Problem Based Learning: 問題志向型学習)

■PBLで能動的学習習慣を身につける

PBLの手法を積極的に導入。講義をただ聞くだけでなく、自ら問題を発見し、解決法を見出す学習法により、患者さんの全身状態に配慮した総合的診断能力を身につけることができます。

4年次

■関連医学で全身を理解する

口腔は全身の一部であり、患者さんの心身の状態を十分に把握した上で、口腔領域の治療やケアを行うために、内科学・外科学をはじめとした関連医学を学習します。

5年次

臨床実習(5-6年次)

5年次から約1年1ヶ月にわたり、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院で診療参加型の臨床実習を行います。それまでに学んだ基礎、臨床の知識、技能、態度を基に、医療の現場で学びます。歯学部における歯科医学教育の最終段階が臨床実習であり、臨床の何たるかを体験する場です。

■6年間の歯科医学学習の総括

臨床実習終了後には、これまでに学んだ基礎系・臨床系科目の内容と臨床実習での豊富な症例から得られる経験とを踏まえて、歯科医学専門科目の総合的な知識の整理を目的とした「総合講義」を受講します。

ここでは、重要ポイントをおさえた講義に加え、ポステストやその解説などを通して、学生の理解度を見極めながら進めていきます。これにより歯科医師として求められる生命科学・社会歯学・臨床歯学の知識と歯科臨床の診査・診断能力を総合的に修得します。

総合講義

歯科医師国家試験合格

コミュニケーション教育

カリキュラムチャート

学外セミナー・病院見学

(前期)
心理学 医療法学 社会福祉 社会学 経済学 哲学
基礎物理学I 一般物理学I 基礎化学I 一般化学I
基礎生物学I 一般生物学I 自然科学演習I
英語I 英語II 英語III 独語 数学I
歯科医学概論(歯科医学史) 情報科学 健康学
体育実技 コミュニケーション学I
(後期)
心理学 生命倫理 美術 基礎物理学II 一般物理学II
基礎化学II 一般化学II 生物学II 自然科学演習II
理科実習 英語II 英語III 英語IV 独語 数学II
歯科基礎数学 人類学 人間生物学 生物の構造と機能
体育実技

病院実習・コミュニケーション技法実習

(前期)
科学英語 歯科医学英語 医療統計 歯科基礎科学
生体の科学 生物の構造と機能 生命現象と物質実習
細胞分子生物学 解剖学 口腔解剖学 組織学 生理学
解剖学実習 口腔解剖学実習 コミュニケーション学II
(後期)
解剖学 口腔組織学 生理学 口腔生理学 生化学 病理学
微生物学 薬理学 歯科薬理学 歯科理工学 解剖学実習
組織学実習 口腔組織学実習 歯科臨床概論
コミュニケーション学II

介護施設実習・医療面接実習

(前期)
歯科医学英語講義 生化学 病理学 口腔病理学I
口腔微生物学 薬理学 歯科理工学 衛生学 法医学
発生生物学 生理学実習 生化学実習 病理学実習
解剖学実習 口腔解剖学実習 歯科理工学実習
保存修復学 歯内療法学 有床義歯補綴学
(後期)
衛生学 口腔衛生学 口腔病理学II 口腔病理学実習
衛生学実習 保存修復学 歯内療法学 有床義歯補綴学
歯科補綴学総論 小児歯科学 歯科矯正学
保存修復学実習 歯内療法学実習 総義歯学実習
コミュニケーション学III

医療面接実習

(前期)
口腔衛生学 社会歯科学 歯科医療管理論
口腔衛生学実習 小児歯科学 歯科矯正学 歯周療法学
有床義歯補綴学 クラウンブリッジ補綴学 口腔外科学
歯科麻酔学 歯科放射線学 内科学 外科学
オラルメディスン 隣接医学(※) 小児歯科学実習
局所義歯学実習 歯科矯正学実習
(後期)
歯周療法学 クラウンブリッジ補綴学 口腔外科学
歯科麻酔学 歯科放射線学 内科学 外科学
プレクリニカル概論 隣接医学(※) 歯周療法学実習
クラウンブリッジ補綴学実習 口腔外科学実習
歯科麻酔学実習 歯科放射線学実習 医療保険
課題講義I(インプラント学) 課題講義II(スポーツ歯学)
課題講義III(口腔の機能と感覚)
(唾液の機能と唾液腺関連疾患)
(咬合と顎機能異常)
(コミュニケーション学IV)

診療参加型カリキュラム

(前期)
臨床実習
課題講義(摂食・嚥下基礎機能)
(摂食・嚥下リハビリテーション)
(訪問歯科)
(医療管理)
(後期)
臨床実習

※隣接医学
小児科学 整形外科学 産婦人科学 眼科学
耳鼻咽喉科学 皮膚科学 形成外科学 精神科学

平成22年度は、下記の日程で授業・試験等が行われた。

平成22年度学年暦

4月	1日(木)	5年生オリエンテーション・登院式 5年生登院器材刻印・検査	11月	1日(月)	120周年学年行事
	5日(月)	入学式		13日(土)	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、学士編入学試験
	6日(火)	新入生オリエンテーション・学内見学 2・3・4年生オリエンテーション	12月	20日(月)	1・2・3・4年生前期追・再試験(～24日(金))
	7日(水)	1・2・3・4年生前期授業開始		25日(土)	冬期休暇(～1月7日(金))
	14日(水)	新入生学外セミナー	1月	6日(木)	6年生第4回総合学力試験(～7日(金))
	16日(金)			11日(火)	1・2・3・4年生授業再開
	30日(金)	1～4年生休講日		15日(土)	大学入試センター試験(～16日(日))
5月	8日(土)	120周年記念学術講演会・東歯学会(～9日(日))		31日(月)	1・2・3・4年生後期授業終了
	22日(土)	120周年記念式典・祝賀会	2月	2日(水)	一般入学試験(I期)、大学入試センター利用試験(I期)
6月	4日(金)	6年生第1回総合学力試験(～5日(土))		7日(月)	1・2・3・4年生後期定期試験(～14日(月))
	10日(木)	1年生健康診断		12日(土)	本学創立記念日
7月	18日(金)	実験動物供養祭(千葉校舎)(3年生)		15日(火)	4年生総合学力試験
	11日(日)	夏期休暇 開始		16日(水)	2年生総合学力試験
8月	31日(火)	夏期休暇 終了		17日(木)	3年生総合学力試験
	1日(水)	1・2・3・4年生授業再開 振替授業(火曜日分) 6年生第2回総合学力試験(～2日(木))		18日(金)	4年生共用試験(CBT)
9月	4日(土)	5年生第1回総合学力試験		19日(土)	5年生第2回総合学力試験
	13日(月)	1・2・3・4年生後期授業開始		21日(月)	1年生総合学力試験
	16日(木)	1・3・4年生前期定期試験(～28日(火))		27日(日)	4年生共用試験(OSCE)(前日26日テストラン)
	17日(金)	2年生前期定期試験(～27日(月))	3月	1日(火)	1・2・3・4年生後期追・再試験(～4日(金))
	28日(火)	解剖慰霊祭(水道橋校舎)(2年生)		5日(土)	5年生総合学力追・再試験
	1日(金)	1・2・3・4年生後期授業開始		7日(月)	3・4年生総合学力追・再試験
	25日(月)	6年生第3回総合学力試験(～26日(火))		8日(火)	1・2年生総合学力追・再試験
10月	28日(木)	振替授業(月曜日分)		10日(木)	4年生共用試験(CBT)追・再試験
	29日(金)	第42回東歯祭(準備・後片けを含む)(～31日(日))		12日(土)	一般入学試験(Ⅱ期)、大学入試センター利用試験(Ⅱ期) 編入学試験
				17日(木)	第116回卒業式
				19日(土)	一般入学試験(Ⅱ期)、大学入試センター利用試験(Ⅱ期) 編入学試験・追試験

⑤ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・研究科等	修業年限	必要修得単位数	取得可能な学位及び専攻名称
東京歯科大学	歯学部	6年	別表Aに表示	学士(歯学)
	大学院歯学研究科	4年	別表Bに表示	博士(歯学)
東京歯科大学 歯科衛生士専門学校	歯科衛生科	3年	121単位	専門士(医療専門課程)

A. 歯学部科目履修方法

1 授業科目及び履修単位数と授業時間数

(1) 教養科目及び履修単位数

授業科目		必修	選択	備考	
一般教育科目	人文科学・社会科学 関係科目	心理学	4		
		生命倫理	2		
		社会福祉	2		
		法学	2		
		美術	2		
		哲学		2	2単位選択
		社会学		2	
		経済学		2	
	自然科学関係科目	物理学	2		
		化学	2		
		生物学	2		
		理科実習	1		
		外国語科目	英語	8	
	独語	4			
保健体育科目	健康学	2			
	体育実技	2			
基礎教育科目	数学	3			
	歯科医学概論	2			
	人類学	2			
	統計学	2			
	人間生物学	2			
	情報科学	2			
	細胞分子生物学	4			
	生体の科学	1			
	歯科基礎科学	1			
	生物の構造と機能	2			
	生命現象と物質実習	1			

教養科目については、上記の如くそれぞれの単位を修得しなければならない。

(2) 専門教育科目及び授業時間数

授業科目	授業時間数	
解剖学(Ⅰ)	解剖学・同実習	168
	口腔解剖学・同実習	96
解剖学(Ⅱ)	組織学・同実習	72
	口腔組織学・同実習	72
	口腔病理学(Ⅰ)	24
生理学	生理学・同実習	96
	口腔生理学	48
生化学	生化学・同実習	120
病理学	病理学・同実習	96
	口腔病理学(Ⅱ)・同実習	96
微生物学	微生物学・同実習	96
	口腔微生物学	24
薬理学	薬理学・同実習	96
	歯科薬理学	24
歯科理工学	歯科理工学・同実習	120
衛生学	衛生学・同実習	72
	口腔衛生学・同実習	72

内科学	内科学・診断学 同臨床示説	48
外科学	外科学 同臨床示説	48
歯科保存学	歯内療法学・同実習	120
	保存修復学・同実習	144
歯周病学	歯周療法学・同実習	96
口腔外科学	口腔外科学・同実習	120
歯科補綴学	有床義歯補綴学・総義歯学実習	168
	局部義歯学実習	96
	歯科補綴学総論	24
	クラウンブリッジ補綴学・同実習	144
歯科矯正学	歯科矯正学・同実習	96
歯科放射線学	歯科放射線学・同実習	60
小児歯科学	小児歯科学・同実習	96
歯科麻酔学	歯科麻酔学・同実習	60
法歯学	法医学・法歯学	24
オーラルメディスン・口腔外科学	オーラルメディスン	24
社会歯科学	社会歯科学	24
講座外	関連臨床医学・同示説	72
総合	課題講義	165
	コミュニケーション学	51
	歯科臨床概論	27
	歯科医学英語講読	24
	発生病態学	24
	医療保険	15
	プレ・クリニカル概論	27
	歯科医療管理学(医療倫理・医療安全管理)	24
	総合講義	390
	臨床	臨床実習

専門教育科目の総授業時間数は、4,800時間以上とし、これを超えて授業する場合の増加時間は、おおむね600時間を限度とする。

2 単位の算定及び履修方法

(1) 単位は、次の算定基準によりこれを計算する。

講義については、教室内における1時間の講義に対して教室外における2時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週2時間(90分)15週間の講義をもつて2単位とする。

演習については、教室内における2時間の演習に対して教室外における1時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週2時間(90分)15週の演習をもつて1単位とする。

実習実技等については、すべて実習室、運動場等で行われるものとし、毎週3時間15週の実習又は実技をもつて1単位とする。

(2) 必修科目は、その全部を履修しなければならない。

(3) 選択科目の履修については、毎年所定の期間中に届け出なければならない。

(4) 専門教育科目の履修方法は、講義については1回の時間を90分とし、実習については、1回の時間を3時間とする。

B. 大学院歯学研究科科目履修方法

学生は4年以上在学し、主科目・選択科目を合わせて30単位以上を履修し、更に独創的研究に基づく学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげたものについては、大学院に3年以上在学すれば足りるものとする。

以下8つの講義区分より選択(複数選択可)

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 基礎系歯学2. 保存・補綴系歯学3. 外科系歯学4. 育成系歯学5. 社会系歯学6. 口腔アンチエイジングによる生体制御7. 英語による講義8. 科学論文作成のための講義 | |
|---|--|

1 年次生は選択必修科目である。2 年次以降は選択科目となる。①1 年次で単位取得できなかった者は2 年次以降履修しなければならない。②選択した区分内の講義において、15 回の出席及び評価をもって1 単位、30 回の出席および評価をもって2 単位を認定する。(1 回(コマ)あたり 45 分)

⑥ 学習環境に関する情報

東京歯科大学歯学部および大学院歯学研究科の3つのキャンパスは、千葉、市川、そして水道橋にある。3キャンパスそれぞれの附属病院は、臨床教育施設としての役割を担っている。現在は、千葉がメインキャンパスであるが、移転計画に伴い、将来的に水道橋がメインキャンパスとなる。

<千葉校舎>

所在地： 千葉県千葉市美浜区真砂 1-2-2

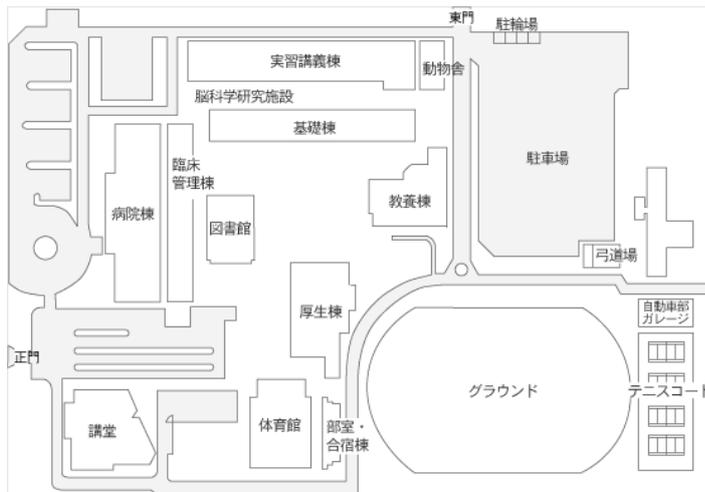
主な交通手段：

- ① JR 稲毛駅下車→千葉海浜バス(1番乗場)「稲毛海岸駅行き(歯科大経由)」乗車→東京歯科大東門下車(所用時間：約10分)
- ② JR 稲毛海岸駅下車→千葉海浜バス(4番乗場)「稲毛駅行き(歯科大経由)」乗車→東京歯科大東門下車(所用時間：約10分)
- ③ 京成稲毛駅下車→徒歩約15分

キャンパスの概要： 教養棟(1・2年次)、実習講義棟・基礎棟(主に3～6年次)、臨床管理棟(6年次)で講義および実習が行われている。

また、厚生棟の1階には、316席が広がる第1食堂が、2階には第2食堂がある。

運動施設の概要： 体育館には武道場、卓球場、剣道場、柔道場、トレーニング室があり、その他、部室合宿棟、グラウンド(1週400メートルトラック)、テニスコート5面、弓道場を擁している。また、千葉市若葉区には野球場として御殿町グラウンド(野球場11,293㎡ クラブハウス247㎡)を備えている。



＜市川総合病院＞

所在地： 千葉県市川市菅野5-11-13

主な交通手段：

- ① JR市川駅下車→京成バス（2番乗場）「市川学園行き」乗車→「市川総合病院」下車（所用時間：約15分）
- ② 京成電鉄「市川真間駅」下車→改札口をでて左側の階段を降り直進→京成バス「市川真間駅」停留所より「市川学園行き」乗車→「市川総合病院」下車（所用時間：約10分）

キャンパスの概要： 歯科学生に対する一般医学教育を充実させることを目的として昭和21年に開院した。現在は570床を有する総合病院に発展し、専任教員により歯科学生への臨床医学教育を行っている。平成18年には口腔がんセンターが開設され、より専門的な医療を行っている。

＜水道橋校舎＞

所在地： 東京都千代田区三崎町2-9-18

主な交通手段：

- ① JR水道橋駅下車→東口改札口を出て右手すぐ
- ② 都営地下鉄三田線 水道橋駅下車→「A2」出口を出て、JR水道橋駅方面 徒歩1分

キャンパスの概要： 7つの歯科診療科および内科・眼科の9診療科、73台の歯科診療台と20床の入院病床を有する、最先端の施設・設備を取り入れた都市型拠点病院である。大学キャンパスの水道橋への移転を控え、学生の臨床教育、歯科医師臨床研修の場としても更なる発展を続けている。

⑦ 学生納付金に関する情報（平成 22 年度入学者について）

東京歯科大学 歯学部

（１）入学年度学生納付金額（9,400,000 円）

	金額	納入時期
入学金	600,000 円	推薦・帰国子女・留学生特別選抜・学士編入学 平成 21 年 11 月 19 日～12 月 4 日
歯学教育充実費	4,300,000 円	一般・センター（Ⅰ期） 平成 22 年 2 月 8 日～2 月 23 日 (ただし入学金については 2 月 8 日～2 月 17 日)
施設維持費	1,000,000 円	一般・センター（Ⅱ期） 平成 22 年 3 月 17 日～3 月 24 日
授業料	3,500,000 円	※入学時一括納入可 前期 1,750,000 円（上記に同じ） 後期 1,750,000 円（平成 22 年 10 月 31 日まで）

※授業料減免制度はなし

（２）２年目以降毎年度納入額（4,500,000 円）

	金額	納入時期
授業料	3,500,000 円	※前・後期一括納入可 前期 1,750,000 円（４月 30 日まで） 後期 1,750,000 円（10 月 31 日まで）
施設維持費	1,000,000 円	4 月 30 日まで

※授業料減免制度はなし

東京歯科大学 大学院歯学研究科

（１）入学年度学生納付金額（1,000,000 円）

	金額	納入時期
入学金	300,000 円	第Ⅰ期合格者 平成 21 年 12 月 14 日～12 月 21 日
施設維持費	100,000 円 ※本学卒業者からは徴収しない	第Ⅱ期合格者 平成 22 年 3 月 1 日～ 3 月 8 日
授業料	600,000 円	※ただし、授業料については、前・後期に分納することができる。

※授業料減免制度はなし

（２）２年目以降毎年度学生納付金額（600,000 円）

	金額	納入時期
授業料	600,000 円	※前・後期分納可 前期 300,000 円（４月 30 日まで） 後期 300,000 円（10 月 31 日まで）

※授業料減免制度はなし

東京歯科大学歯科衛生士専門学校(入学年度学生納付金額 800,000 円 2 年目以降 600,000 円)

	金額	納入時期
入学金	200,000 円	推薦入学者 平成 21 年 11 月 4 日～11 月 20 日 一般入学者 平成 22 年 1 月 29 日～2 月 15 日
授業料	600,000 円	前期 300,000 円 (4 月 30 日まで) ※ただし入学時は上記入学金に同じ 後期 300,000 円 (10 月 31 日まで)

※授業料減免制度はなし

⑧ 学生支援と奨学金に関する情報

本学では、学生の修学及び学生生活上の全般的な支援を行うための支援体制として、学年毎に学年主任・クラス主任・副主任を置き、きめ細かな修学指導を行っている。健康管理面では、健康管理センター（内科）があり、修学指導関係者と密に連携を取りながら対応している。

奨学金については、学生生活を経済的に援助することを目的とした独自の奨学金制度として、学資の一部を給付する「東京歯科大学特別奨学金」と、学資の一部を貸与する「東京歯科大学貸与奨学金」を設けている。この奨学金のほかに本学父兄会による「東京歯科大学父兄会貸与共済基金」があり、この三つの制度が連動して修学資金を援助している。

<学生支援組織>

学年毎に学年主任・クラス主任・副主任を置き、修学上及び学生生活全般に対するサポート体制をとっている。また、健康管理センターでは、各種カウンセリングを行っているほか、体調の悪い学生は本学の付属病院である市川総合病院で受診できる体制を整えている。

<奨学金制度>

名 称	内 容	金 額	期 間
東京歯科大学特別奨学金	学業・人物が優れている者に学資の一部を給付し、優秀な人材を育成することを目的としている。	100万円または50万円	1年
東京歯科大学貸与奨学金	経済的理由(学費支弁者の事故等)により修学が困難な学生に所定の金額を貸与する。	施設維持費(100万円)の範囲内	最長3年

(3) 管理運営の概要

【ガバナンスについて】

平成 22 年 6 月に東京歯科大学法人事務局に「内部監査室」を設置した。監査は、理事長の命により、本法人の業務運営及び会計処理について適法性及び妥当性の観点から、公正かつ客観的な立場で検証、評価を行い、その監査結果に基づき情報の提供及び改善並びに合理化のための助言、提言を行うことにより、本法人の健全な運営に資することを目的とする。

【自己点検・評価について】

平成 21 年度に大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審した。そして同年 10 月の実地視察等を経て、平成 22 年 3 月 12 日付大基委大評第 300 号をもって大学基準協会より、本学が「大学基準に適合している」旨の通知と「大学基準適合認定証」が交付された。本学に対する認定期間は、平成 22 年 4 月 1 日より 7 年間（平成 29 年 3 月末まで）である。総評に関連して幾つかの「助言」が付されたが、これらについてはその趣旨に添った改善策を講じ、改善状況を「改善報告書」として取りまとめ、平成 25 年 7 月末までに大学基準協会へ提出する予定である。

【情報公開について】

財政の適正な情報を社会に向けて公表するため、ホームページ上に閲覧者が分かりやすい内容で公開している。また、本学の組織・運営及び諸活動についての現状とそれに対する社会的評価を社会に向けて公表するため、自己点検・評価結果及び大学評価（認証評価）結果をホームページ上で公開している。

【施設設備整備について】

本学は、歯学部、大学院歯学研究科を設置しており、その臨床教育施設として 3 つの附属病院を設けている。これらの施設は、千葉、市川、水道橋の 3 キャンパスに分散配置されている。千葉キャンパスはメインキャンパスであり、歯学部と大学院歯学研究科の校舎及び臨床教育研究施設である千葉病院が置かれている。また、学外の御殿町グラウンドに、公式試合に使用できる野球場とクラブハウスを整備している。

(4) その他取り組みの概要

① 教育力向上の取り組みの概要

本学の特色として、歯科医学教育に関する教育内容、教育方法の研究・開発を行う教育の中心的部門として歯科医学教育開発センターを設置している。平成 21 年度から「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」という取り組みが、新たに文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラムに採択された。全学的な取り組みであるが、このプログラム推進の活動が今センターの重要な活動の一つとなっている。この取り組みの目的は、「安心・信頼して診療を任せられる、歯科医師としての人間力を身につけ、卒業時には、患者の社会的背景、複数の疾患、年齢、患者周囲の状況などを配慮した総合診療計画が立案できる、社会が求める歯科医師を養成する」ことである。

② 国際交流の概要

本学は、アメリカ・スウェーデン・韓国・中国・台湾・ロシアの 6ヶ国 8 大学と姉妹校締結をしている。(平成 22 年 5 月現在) その中で、韓国の延世大学校歯科大学とは、昭和 63 年から学生交流をしており、毎年交互に 10 数名の代表学生がお互いの大学を訪問している。学生交流では、英語による学術講演や研究発表会が行われるほか、日韓の歴史や文化に触れるプログラムが組まれるなど、参加した学生に多くのグローバルな経験をもたらしている。

③ 社会貢献・連携活動の概要

本学は、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の 3 つの附属病院を設置し、それぞれ歯科医療及び医科医療の中核的地域医療機関として地域の医療にも大きく貢献している。

また、これらの附属病院は、一般歯科診療所、開業医の支援病院としても地域医療を支えている。また、社会人などを対象にする授業や、授業に匹敵する内容の講座は開設していないが、医療系大学の特色を生かし、地域市民を対象に、歯・口腔・身体的健康に関する関心度の高い内容についてテーマを設定した講演会を毎年開催している。

3. 財務の概要

(1) 財産目録

財産目録

(単位:千円)

区 分	平成22年度	平成21年度	増 減
資産額			
1. 基本財産	38,724,987	35,263,507	3,461,480
土地	(215,944.45 m ²) 14,200,143	(214,000.03 m ²) 12,767,051	1,433,092
建物	(119,109.463 m ²) 16,953,697	(111,649.873 m ²) 16,588,033	365,665
図書	(37,171 冊) 774,667	(35,251 冊) 775,703	△1,036
教具・工具・備品	(3,860 点) 3,920,392	(3,841 点) 3,599,163	321,229
その他	2,876,087	1,533,557	1,342,530
2. 運用財産	19,894,959	20,386,897	△491,938
現金預金	1,706,667	1,690,453	16,214
その他	18,188,292	18,696,444	△508,151
3. 収益事業用財産	△89,698	△112,947	23,249
資産総額	58,530,249	55,537,457	2,992,792
負債額			
1. 固定負債	5,641,717	5,118,468	523,248
長期未払金	650,754	103,612	547,142
その他	4,990,963	5,014,856	△23,893
2. 流動負債	2,817,538	2,672,618	144,920
前受金	1,239,555	1,235,589	3,966
その他	1,577,983	1,437,029	140,954
負債総額	8,459,255	7,791,086	668,169
正味財産(資産総額-負債総額)	50,070,994	47,746,370	2,324,623

1. 資産の土地の増加は、大学移転計画に伴う東京都千代田区三崎町2丁目土地取得と、市川市との千葉県市川市菅野6丁目土地交換取得によるものである。
2. 資産の建物の増加は、水道橋校舎TDCビルI期棟6階から10階を収益事業から振り替えたことによるものである。
3. 資産のその他の増加は、建設仮勘定（水道橋の新校舎建設工事の着手金12億908万円）等によるものである。
4. 固定負債の長期未払金の増加は、リース資産の未払いによるものである。
5. 流動負債のその他の増加は、リース契約取得機器備品の、長期未払金からの振替によるものである。

(2) 貸借対照表

貸 借 対 照 表

平成 23年 3 月 31 日現在

資 産 の 部

(単位：千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	((53,004,588))	((49,122,597))	((3,881,991))
有形固定資産	(38,643,707)	(35,181,186)	(3,462,521)
土 地	14,200,143	12,767,051	1,433,092
建 物	16,953,697	16,588,033	365,664
構 築 物	1,018,343	1,120,440	△ 102,097
教育研究用機器備品	3,920,392	3,599,163	321,229
その他の機器備品	197,415	184,182	13,233
図 書	774,668	775,703	△ 1,035
車 輜	2,595	1,714	881
建設仮勘定	1,576,454	144,900	1,431,554
その他の固定資産	(14,360,881)	(13,941,411)	(418,660)
電話加入権	9,619	9,619	0
施設利用権	4,809	5,354	△ 545
収益事業元入金	52,070	52,070	0
長期貸付金	14,781	15,278	△ 497
退職給与引当特定資産	4,990,963	5,014,856	△ 23,893
減価償却引当特定資産	4,938,092	5,159,700	△ 221,608
施設設備整備引当資産	1,500,000	1,000,000	500,000
大学移転寄付特定資産	165,314	14,800	150,514
第3号基本金引当資産	2,681,385	2,666,696	14,689
長期前払費用	1,130	330	800
敷金保証金等	2,718	2,708	10
流 動 資 産	((5,615,358))	((6,527,806))	((△912,448))
現金預金	1,706,667	1,690,453	16,214
未収入金	2,911,774	2,791,377	120,397
貯蔵品	220,073	187,229	32,844
短期貸付金	699,637	1,768,547	△ 1,068,910
短期前払費用	77,207	90,200	△ 12,993
資 産 の 部 合 計	58,619,946	55,650,403	2,969,543

負 債 の 部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	((5,641,717))	((5,118,468))	((523,249))
長期未払金	650,754	103,612	547,142
退職給与引当金	4,990,963	5,014,856	△ 23,893
流 動 負 債	((2,817,538))	((2,672,618))	((144,920))
未払金	1,365,483	1,227,141	138,342
前受金	1,239,555	1,235,589	3,966
預り金	212,500	209,888	2,612
負 債 の 部 合 計	8,459,255	7,791,086	668,169

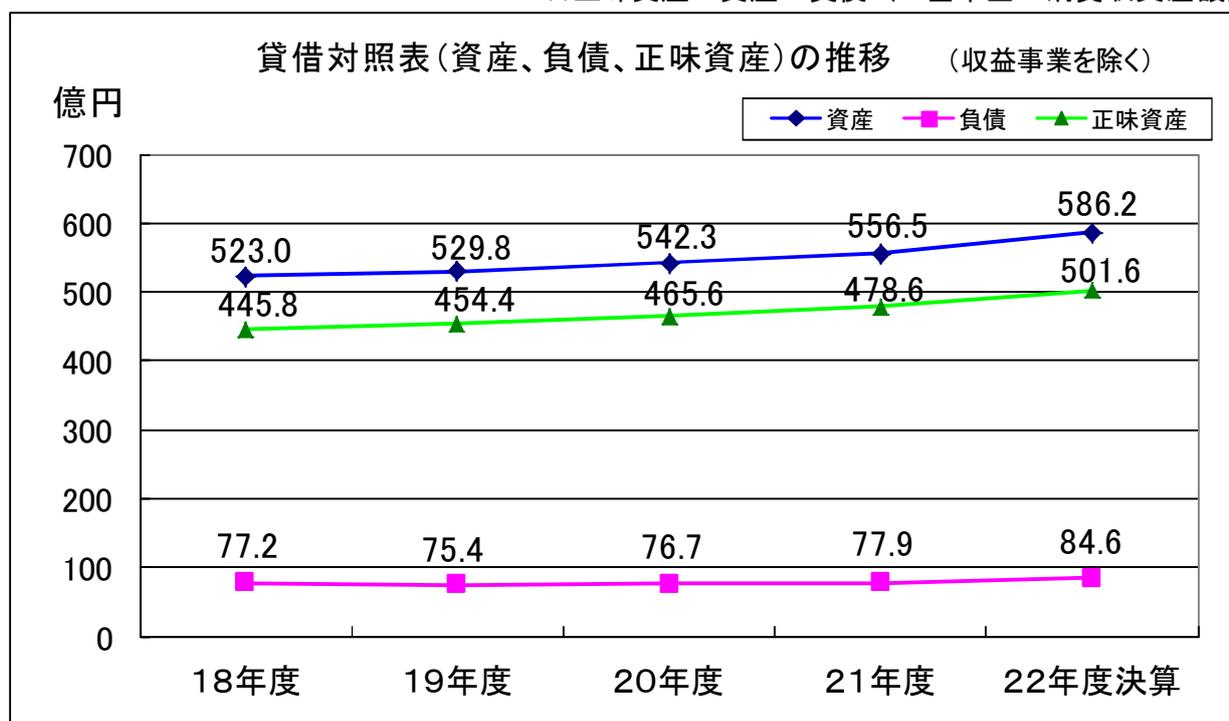
基本金の部

科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	73,080,522	67,013,908	6,066,614
第2号基本金	1,500,000	1,000,000	500,000
第3号基本金	2,681,386	2,666,696	14,690
第4号基本金	1,706,667	1,690,454	16,213
基本金の部合計	78,968,575	72,371,058	6,597,517

消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	28,807,884	24,511,740	4,296,144
消費収支差額の部合計	△28,807,884	△24,511,740	△4,296,144
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	58,619,946	55,650,404	2,969,542

☆正味資産＝資産－負債（＝基本金＋消費収支差額）

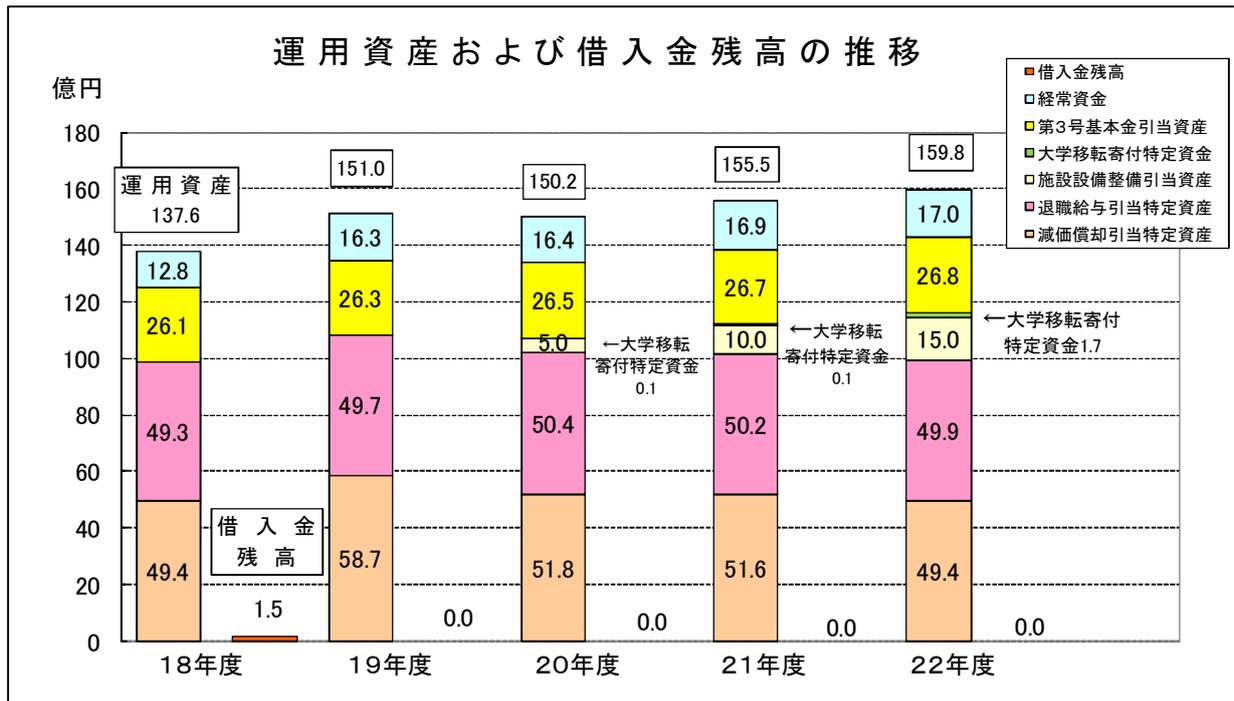


資産は前年度予算と比べると、千代田区三崎町2丁目の土地取得、新校舎建設工事着手金による建設仮勘定の増などによる固定資産の増などにより、約29億7,000万円の増となった。

一方、負債は、市川総合病院での電子カルテシステムをリース契約で取得し、長期未払金及び未払金、がやや増となり、約6億7,000万円増となった。

学校法人の資金調達源泉を分析する正味資産／総資金比率（総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額）は22年度85.6%となり、前年度より0.4%数値は低くなった。

負債の割合を見る総負債比率（総負債／総資産）は0.4%高い14.4%となった。



運用資産は、次年度予算編成時に予想した22年度決算見込で約158億8,000万円であった。平成23年3月11日の大震災による影響での医療収入減により、資金の減少が懸念されたが、決算では約159億8,000万円となった。第2号基本金相当の施設設備整備引当資産を5億円増とし、退職給与引当金に対応して特定資産を保持している。経常資金・退職給与引当特定資産を除く運用資産残は、約92億9,000万円となっている。

(3) 収支計算書

資金収支計算書

学校法人会計での資金収支計算書を作成する目的は、第一に当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにすること。第二に当該会計年度での支払資金の収入と支出とその顛末を明らかにすることである。当該年度はもとより、前年度以前あるいは次年度以降の諸活動に関する資金も含め、当該会計年度の中で実際に動きのあった全ての支払い資金（現金預金）の収支の動きを明らかにするため調整項目を設けている。

平成22年度において、(収入の部)では、学生生徒等納付金収入・手数料収入・資産運用収入・事業収入・医療収入については、消費収入と同等である。前受金収入は予算と同等、その他の収入には各特定資産からの繰入収入などを計上している。寄付金収入は、実際の資金の収入ではない現物寄付金は除く。予算より約1億9,500万円増の約2億7,000万円となった。補助金収入は、予算より約400万円増の約11億9,000万円となった。雑収入は、予算より約1億4,400万円増の約6億4,500万円となった。前受金収入は、学部・歯科衛生士専門学校の平成23年度入学生からの学納金ほかで、予算より約1,100万円増の約12億4,000万円となった。その他の収入は、各特定資産からの繰入収入、前期末未収入金収入、貸付金回収収入などで総額約183億円となった。以上、収入の総額から資金収入調整勘定の期末未収入金・前期末前受金合計約41億4,900万円を差し引いた収入の部小計は、約405億3,100万円となった。前年度繰越支払資金約16億9,000万円を加えた収入の部合計は、約422億2,100万円となった。

一方、(支出の部)では、人件費支出は、教員の対予算人員減で教員人件費支出が約2億5,000万円減、職員も予算よりやや減だが、退職金支出が予算を約1億9,600万円上回ったことで、総額では予算より約7,200万円減の約118億3,700万円となった。教育研究経費支出は、消費収支計算書の教育研究経費から減価償却額および消耗品費の現物寄付を除いた額などで、今年度は記念事業費も含み、予算より約3億1,900万円減の約79億3,600万円となった。管理経費支出は、消費収支計算書の管理経費から減価償却額を除いた額などで、今年度は記念事業費も含み、予算より約2億2,300万円減の約18億9,600万円となった。施設関係支出では、大学移転計画建築工事着手金12億908万円を建設仮勘定として予算を補正している。また移転計画での土地支出に8,600万円予備費を流用している。実績約24億2,800万円は、補正後の予算と比較して、4,400万円下回っている。設備関係支出のうち教育研究用機器備品支出では、市川総合病院でのリース備品電子カルテシステムが予算を約1億9,500万円残したほか、大学・千葉病院でも約4,600万円予算を残している。その他の機器備品支出、図書支出も予算内の執行となり、設備関係支出総額は、予算より約2億8,200万円減の約12億3,500万円となった。資産運用支出は、退職給与引当特定資産への繰入支出・減価償却引当特定資産への繰入支出などを総額表示し、約157億7,700万円となった。その他の支出は、貸付金支払支出、前期末未払金支払支出などで、収入支出相殺額を除き、総額で約14億700万円となった。以上、支出総額から資金支出調整勘定の期末未払金、前期末短期前払費用の総額約20億200万円を差し引いた支出の部小計は、約405億1,500万円となった。以上の結果、収入の部合計から支出の部小計を差し引いた17億700万円は、支払資金として次年度へ繰越となった。

平成22年度 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成22年度予算	平成22年度決算	差 異	平成21年度決算	増 減
(収入の部)					
1. 学生生徒等納付金収入	4,538,040	4,558,494	20,454	4,441,674	116,820
2. 手数料収入	29,230	44,642	15,412	34,013	10,629
3. 寄付金収入	74,650	269,626	194,976	112,122	157,504
4. 補助金収入	1,185,320	1,189,613	4,293	1,314,814	△125,201
(国庫補助金収入)	(1,175,940)	(1,177,763)	(1,823)	(1,304,132)	(△126,369)
(地方公共団体補助金収入)	(9,380)	(11,850)	(2,470)	(10,682)	(1,168)
5. 資産運用収入	221,590	233,090	11,500	261,520	△28,430
6. 事業収入	363,440	483,699	120,259	396,096	87,603
7. 医療収入	17,400,490	17,716,748	316,258	16,875,836	840,912
8. 雑収入	500,570	644,705	144,135	566,345	78,360
9. 前受金収入	1,228,460	1,239,544	11,084	1,235,583	3,961
10. その他の収入	16,629,830	18,299,893	1,670,063	15,914,961	2,384,932
11. 資金収入調整勘定	△3,918,700	△4,149,011	△230,311	△4,004,409	△144,602
小 計	38,252,920	40,531,043	2,278,123	37,148,555	3,382,488
12. 前年度繰越支払資金	1,690,450	1,690,453	3	1,643,611	46,842
収入の部合計	39,943,370	42,221,496	2,278,126	38,792,166	3,429,330
(支出の部)					
1. 人件費支出	11,909,230	11,837,419	△71,811	11,497,284	340,135
2. 教育研究経費支出	8,255,520	7,936,084	△319,436	7,746,473	189,611
3. 管理経費支出	2,119,040	1,896,452	△222,588	1,773,354	123,098
4. 借入金等利息支出	0	0	0	0	0
5. 借入金等返済支出	0	0	0	0	0
6. 施設関係支出	2,471,720	2,427,688	△44,032	1,766,375	661,313
7. 設備関係支出	1,516,870	1,234,603	△282,267	755,911	478,692
8. 資産運用支出	12,649,410	15,777,409	3,127,999	13,479,585	2,297,824
9. その他の支出	1,271,130	1,407,406	136,276	1,499,402	△91,996
	{86,000}				
10. [予 備 費]	163,780		△163,780		
11. 資金支出調整勘定	△2,139,030	△2,002,232	136,798	△1,416,672	△585,560
小 計	38,217,670	40,514,829	2,297,159	37,101,712	3,413,117
12. 次年度繰越支払資金	1,725,700	1,706,667	△19,033	1,690,454	16,213
支出の部合計	39,943,370	42,221,496	2,278,126	38,792,166	3,429,330

消費収支計算書

平成22年度の消費収入の部では、帰属収入合計は、約257億7,800万円となり、予算より約8億2,200万円増(3.3%増)となった。科目別にみると、学生生徒等納付金は入学金の増などで約2,000万円の増となった。寄付金では、水道橋校舎施設設備整備寄付金があったため寄付金全体で予算より約1億8,900万円増となった。補助金は私立大学等経常費補助金が予算より約3,700万円増となったが歯科臨床研修医補助金が約4,000万円減で、全体では予算と同等の値となった。資産運用収入では、受取利息・配当金に対予算増となり、施設設備利用料と合わせて約1,100万円増となった。資産売却差額では、市川市での旧市川総合病院跡地の一部売却に伴う土地売却差額などを予算通り執行した。事業収入では、TDCビルの一部を収益事業から移管を受けたため収益事業収入では学校会計繰入金1億1,000万円増、全体で予算を約1億2,000万円上回った。医療収入については、3月11日に発生した東日本大震災の影響での減収が懸念されたが、2月実績累計での対予算増もあり、医療収入全体では予算より約3億1,600万円増となった。千葉病院では入院収入減、外来収入増となり医療収入合計で対予算やや増、水道橋病院では自費患者数減で外来・入院とも収入減となった。また、市川総合病院では震災影響での計画停電で診療体制が変更となったものの、予算・前年度実績ともに上回った。雑収入では、退職金財団交付金が予算より約1億1,400万円増になり、雑収入全体で約1億4,400万円の増となった。

基本金組入額合計は、約71億300万円を計上した。第1号基本金組入額は、新たな固定資産の取得額から本年度の除却および廃棄する固定資産の額を差し引いた額を組み入れた。学校法人では予算計上の千代田区三崎町2丁目土地購入、旧市川総合病院隣接地などの土地購入を実施したほか、TDCビルの一部を収益事業から学校会計に移管し、補正予算執行とした大学移転計画建築工事着手金を建設仮勘定で組入れしている。第1号基本金組入額は約65億7,300万円となり、新校舎建設に係る第2号基本金に5億円を組入れた。また第3号基本金組入額は、学術研究奨励基金・特別奨学基金合わせて約1,500万円を組み入れた。第4号基本金組入額は、恒常的に保持すべき資金として約1,600万円を組み入れた。

一方、消費支出の部では、消費支出の部合計は、約234億7,700万円となり、予算より約7億8,400万円減(3.2%減)となった。人件費では教員人件費の減、退職給与引当金繰入額の増があり、人件費全体で予算より約3,500万円の減となった。教育研究経費総額では予算より約3億7,600万円減となった。＜教育研究経費＞は多くの科目で予算内執行、＜医療経費＞は予算同等となった。また＜記念事業費＞を含めた管理経費総額も各施設で予算内執行となり、予算より約1億4,000万円減となった。

その結果、短期的な経営指針である帰属収支差額(資産売却差額・予備費を除く)でみると約16億7,400万円の黒字計上となり、予算を約16億500万円上回った。帰属収入に対する消費支出比率(資産売却差額・予備費を除く)は当初予算の98.8%に対し93.3%となった。また、長期的運営指針である消費収入ー消費支出では、大学移転計画進展での基本金組入額の増で、約48億200万円の支出超過となった。また、全体での基本金取崩額は、約5億600万円となった。

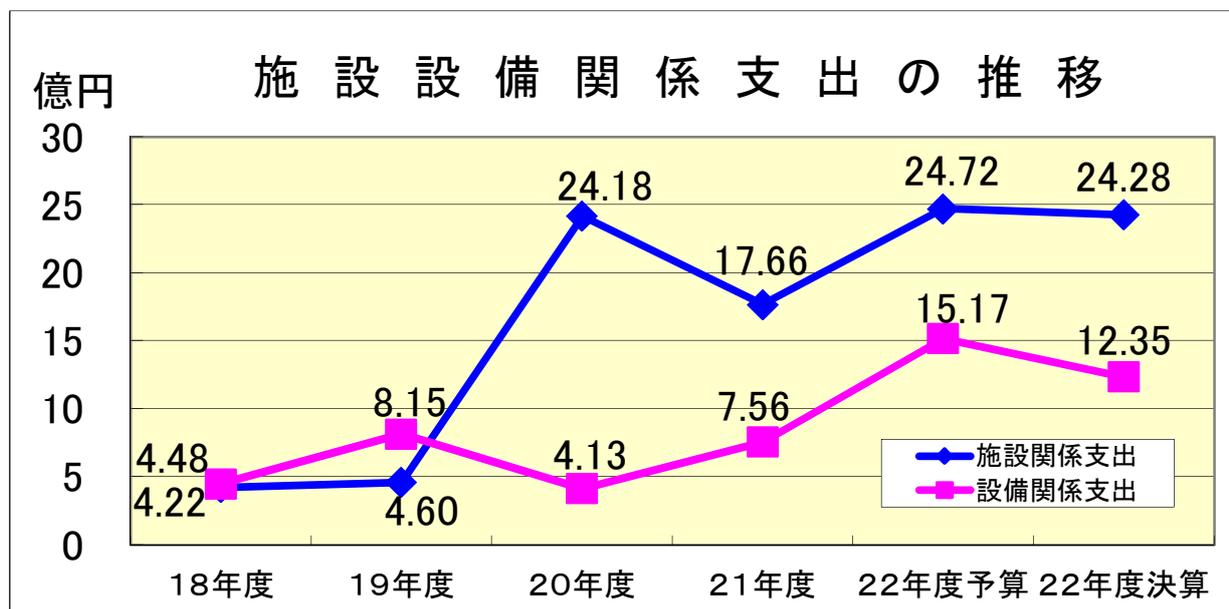
平成22年度 消費収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成22年度予算	平成22年度決算	差 異	平成21年度決算	増 減
(消費収入の部)					
1. 学生生徒等納付金	4,538,040	4,558,494	20,454	4,441,674	116,820
2. 手数料	29,230	44,642	15,412	34,013	10,629
3. 寄付金	90,550	279,715	189,165	119,696	160,019
4. 補助金	1,185,320	1,189,613	4,293	1,314,814	△125,201
(国庫補助金収入)	(1,175,940)	(1,177,763)	(1,823)	(1,304,132)	(△126,369)
(地方公共団体補助金収入)	(9,380)	(11,850)	(2,470)	(10,682)	(1,168)
5. 資産運用収入	221,590	233,090	11,500	261,520	△28,430
6. 資産売却差額	627,600	627,594	△6	0	627,594
7. 事業収入	363,440	483,699	120,259	396,096	87,603
8. 医療収入	17,400,490	17,716,748	316,258	16,875,836	840,912
9. 雑収入	500,570	644,858	144,288	566,349	78,509
帰属収入合計	24,956,830	25,778,453	821,623	24,009,998	1,768,455
10. 基本金組入額合計	△3,898,430	△7,103,531	△3,205,101	△2,804,087	△4,299,444
消費収入の部合計	21,058,400	18,674,922	△2,383,478	21,205,911	△2,530,989
(消費支出の部)					
1. 人件費	11,848,500	11,813,526	△34,974	11,471,153	342,373
2. 教育研究経費	9,753,540	9,376,922	△376,618	9,161,058	215,864
<教育研究経費>	<4,632,060>	<4,251,732>	<△380,328>	<4,090,226>	<161,506>
<医療経費>	<5,108,410>	<5,114,161>	<5,751>	<5,070,269>	<43,892>
<記念事業費>	<13,070>	<11,029>	<△2,041>	<563>	<10,466>
3. 管理経費	2,380,540	2,240,993	△139,547	2,053,667	187,326
<管理経費>	<2,294,840>	<2,174,259>	<△120,581>	<2,029,875>	<144,384>
<記念事業費>	<85,700>	<66,734>	<△18,966>	<23,792>	<42,942>
4. 借入金等利息	0	0	0	0	0
5. 資産処分差額	36,000	33,499	△2,501	10,047	23,452
6. 徴収不能引当金繰入額等	16,740	12,139	△4,601	15,562	△3,423
7. [予備費]	225,040		△225,040		
消費支出の部合計	24,260,360	23,477,079	△783,281	22,711,487	765,592
当年度消費支出超過額	△3,201,960	△4,802,157	△1,600,197	△1,505,575	△3,296,581
前年度繰越消費支出超過額	△24,717,680	△24,511,740	205,940	△23,617,665	△894,075
基本金取崩額	453,140	506,014	52,874	611,500	△105,486
翌年度繰越消費支出超過額	△27,466,500	△28,807,883	△1,341,383	△24,511,740	△4,296,142
(帰属収入－消費支出)	(696,470)	(2,301,374)	(1,604,904)	(1,298,511)	(1,002,863)
(〃)資産売却差額を除く	(68,870)	(1,673,780)	(1,604,910)	(1,298,511)	(375,269)

(4) グラフで見る財務状況

① 施設設備関係支出の推移



22年度…学校法人で、移転計画建設工事着手金他17億9,300万円(土地取得含む)、市川旧病院隣接土地取得4億4,400万円。市川総合病院で、電子カルテ関係備品取得で7億8,900万円。

21年度…学校法人で、水道橋校舎土地取得他15億5,900万円(建設仮勘定含む)。三崎町・西神田土地ほか。市川総合病院で、冷温水機更新工事ほかで2億600万円、放射線治療システム2億3,900万円。

20年度…学校法人で、水道橋校舎土地取得他22億1,800万円(建設仮勘定含む)。さいかち坂土地ほか。市川総合病院で、中央監視装置更新工事ほかで1億9,900万円。

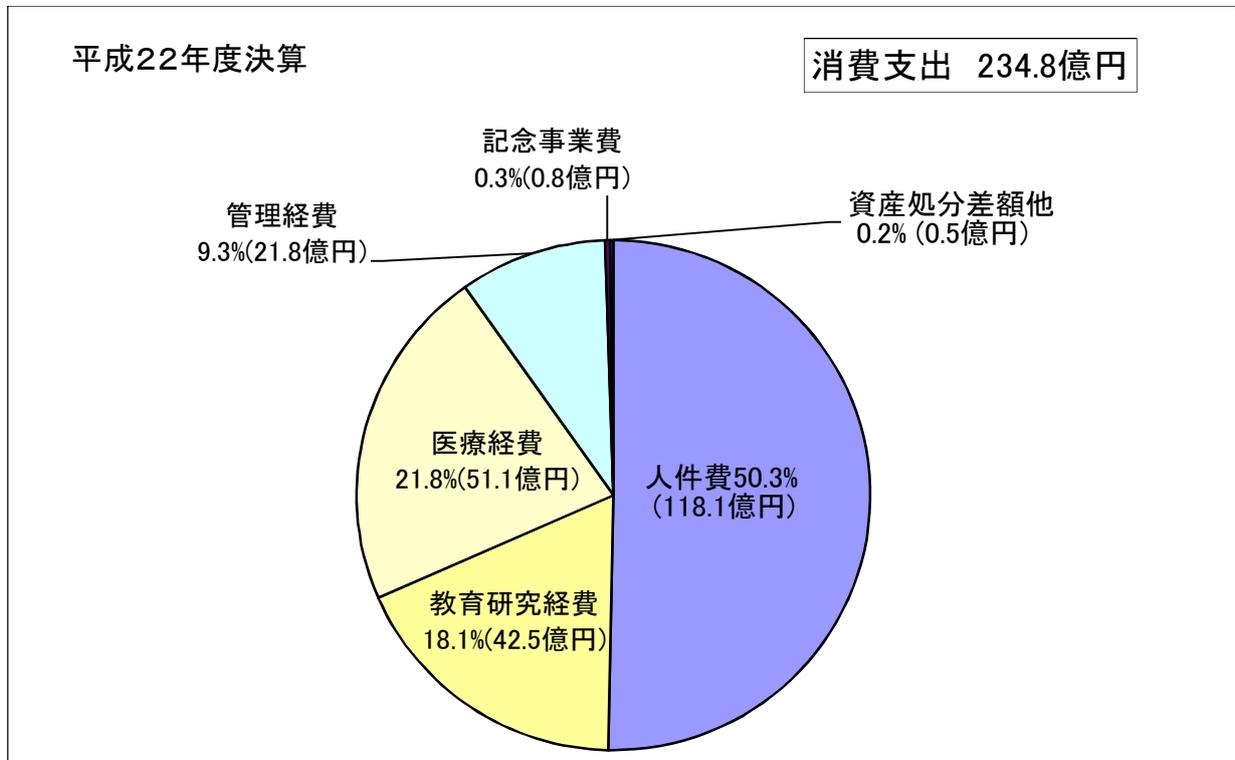
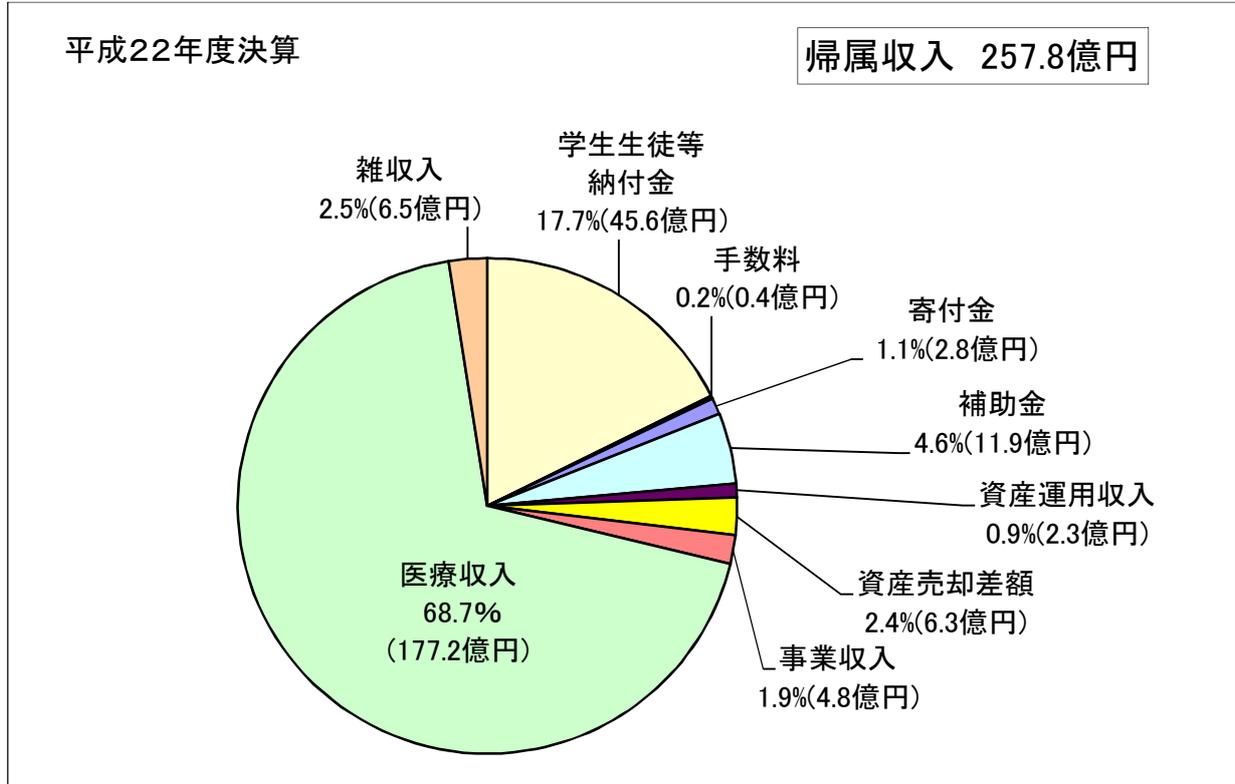
19年度…学校法人で、水道橋校舎土地取得3億3,600万円(建設仮勘定含む)。市川総合病院MRI・CT装置3億2,800万円。

18年度…学校法人で、水道橋校舎土地取得3億700万円。

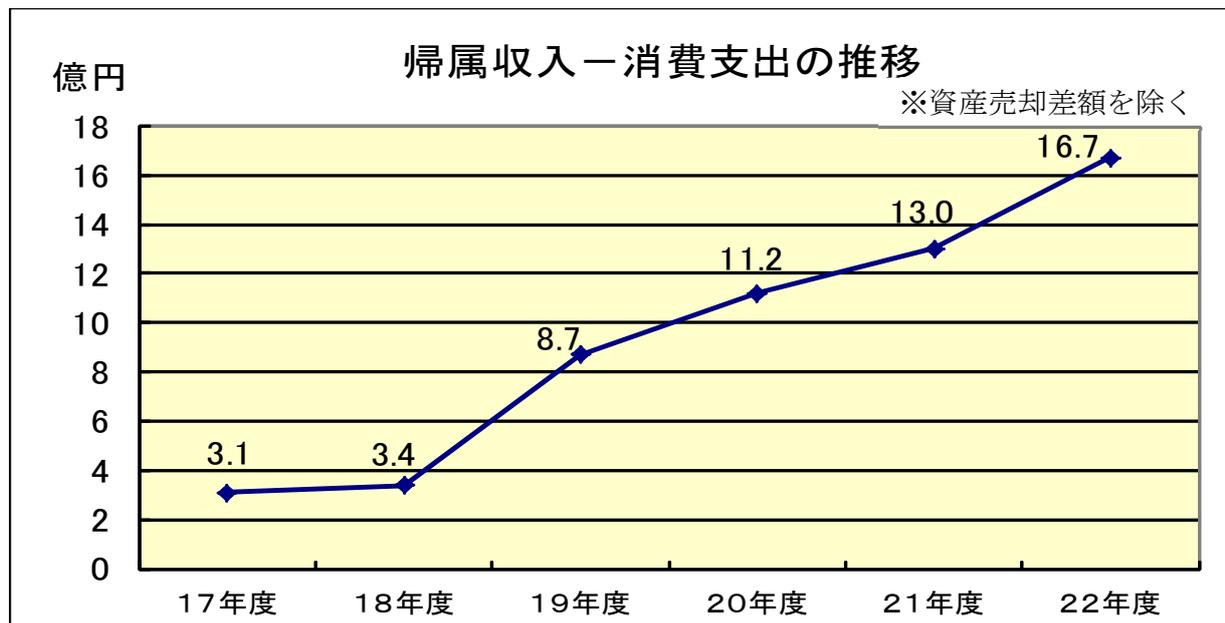
※主な現有施設の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等	取得価額	帳簿価額	摘要
東京都千代田区 (水道橋キャンパス)	校舎敷地	3,691㎡	628,298千円	628,298千円	学校法人本部、水道橋病院、収益事業テナントが用途区分し利用している。
	校舎	24,214㎡	10,740,884千円	3,700,170千円	
	土地	2,878㎡	8,159,069千円	8,159,069千円	
千葉県千葉市美浜区 (千葉キャンパス)	建物	895㎡	252,992千円	218,444千円	大学移転用地。土地は一部駐車場として賃貸、建物は建物賃貸として利用している。
	校舎敷地	99,184㎡	1,863,395千円	1,863,395千円	
	校舎	54,475㎡	15,464,258千円	4,464,475千円	
千葉縣市川市 (市川キャンパス)	土地	3,300㎡	752,340千円	752,340千円	大学隣接土地。学校法人が管理している。
	校舎敷地	38,020㎡	194,485千円	194,485千円	
	校舎	42,525㎡	19,207,015千円	8,931,270千円	市川総合病院として利用している。
	土地	2,048㎡	531,632千円	531,632千円	
	建物	3,964㎡	750,596千円	593,834千円	看護師等宿舎として利用している。
	土地	591㎡	132,745千円	132,745千円	
	土地	11,395㎡	1,183,620千円	1,183,620千円	病院隣接土地。病院が管理している。
土地	9,991㎡	52,640千円	52,640千円		
千葉県千葉市若葉区	土地	31,916㎡	988,576千円	988,576千円	継ユニリビングへ賃貸している。
	建物	247㎡	91,505千円	22,150千円	
米国ニューヨーク州	土地	12,910㎡	37,983千円	37,983千円	運動場として利用している。
	建物	134㎡	10千円	10千円	
千葉県鴨川市	土地	215㎡	29千円	29千円	歴史的建造物(野口英世旧別荘)として管理している。
	建物	134㎡	10千円	10千円	
総計					旧鴨川寮敷地、学校法人で管理している。
土地	216,138㎡	14,524,812千円	14,524,812千円		
建物	126,454㎡	46,507,260千円	17,930,353千円		

② 消費収支科目構成

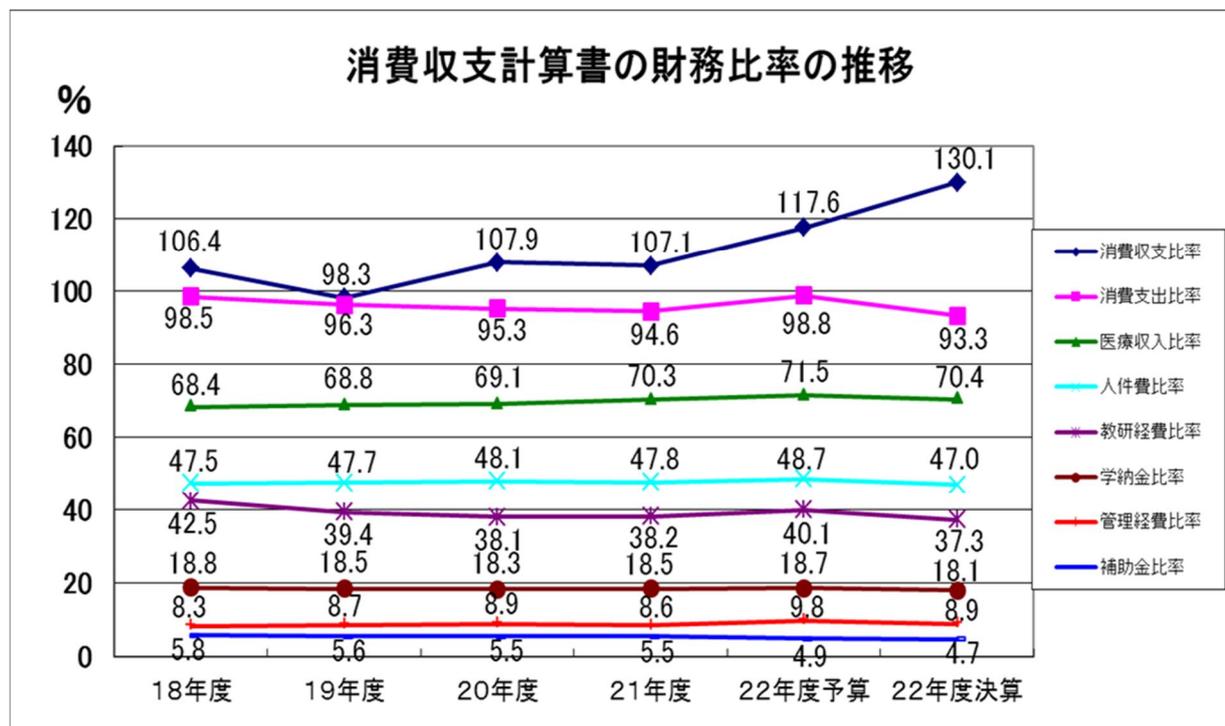


③ 帰属収支差額の推移



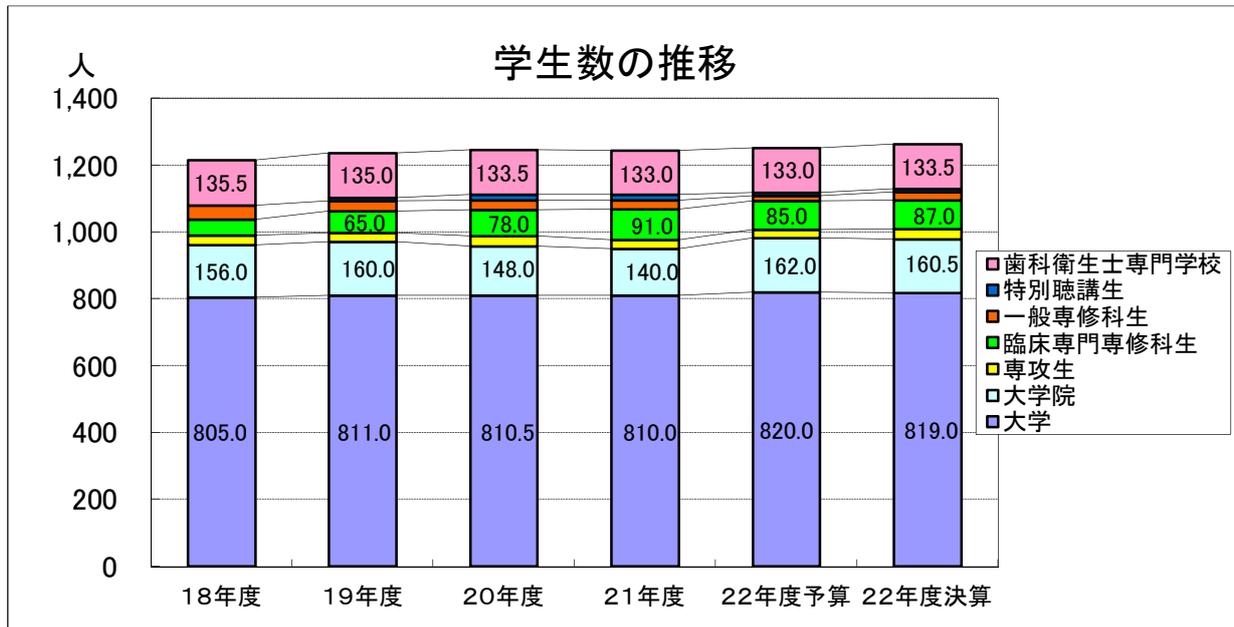
④ 財務趨勢比率の推移

22年度予算・決算の消費収支比率(消費支出／消費収入)、消費支出比率(消費支出／帰属収入)は予備費と資産売却差額を除いた金額で算出した比率である。



水道橋校舎TDCビルテナントの一部が賃貸終了となり、その建物を収益から法人に移管して、法人の基本金組入額が増となったことから、消費収支比率は増となった。消費支出比率・人件費比率・教育研究経費比率は、19年度以降の学納金増、21年度の放射線備品補助金、22年度の大学移転寄付金など臨時的要素での収入増もあり、見かけ上経費率が漸減している。補助金比率は臨時的補助金がなくなり下がっている。

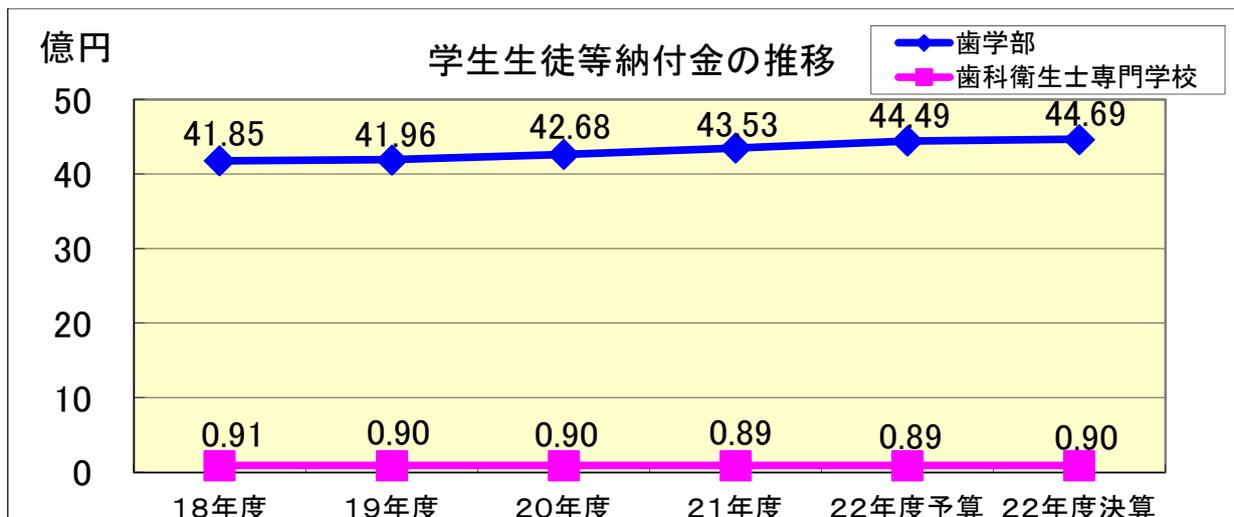
⑤ 学生数及び学生生徒等納付金の推移



(人)

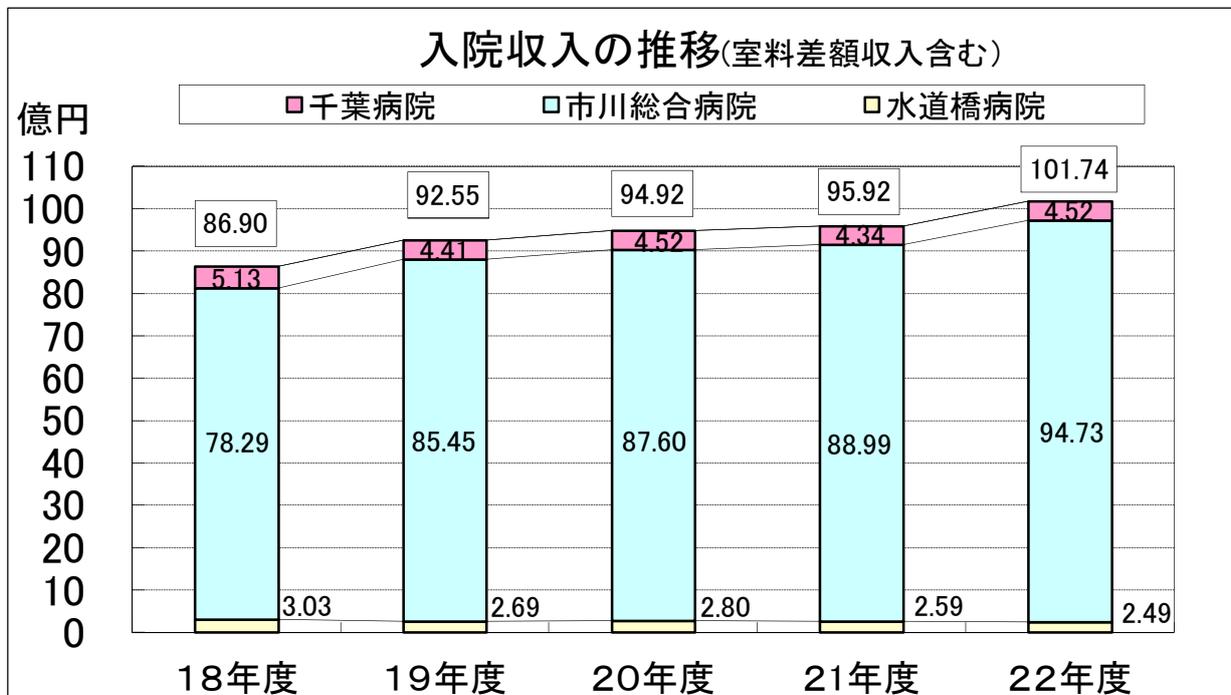
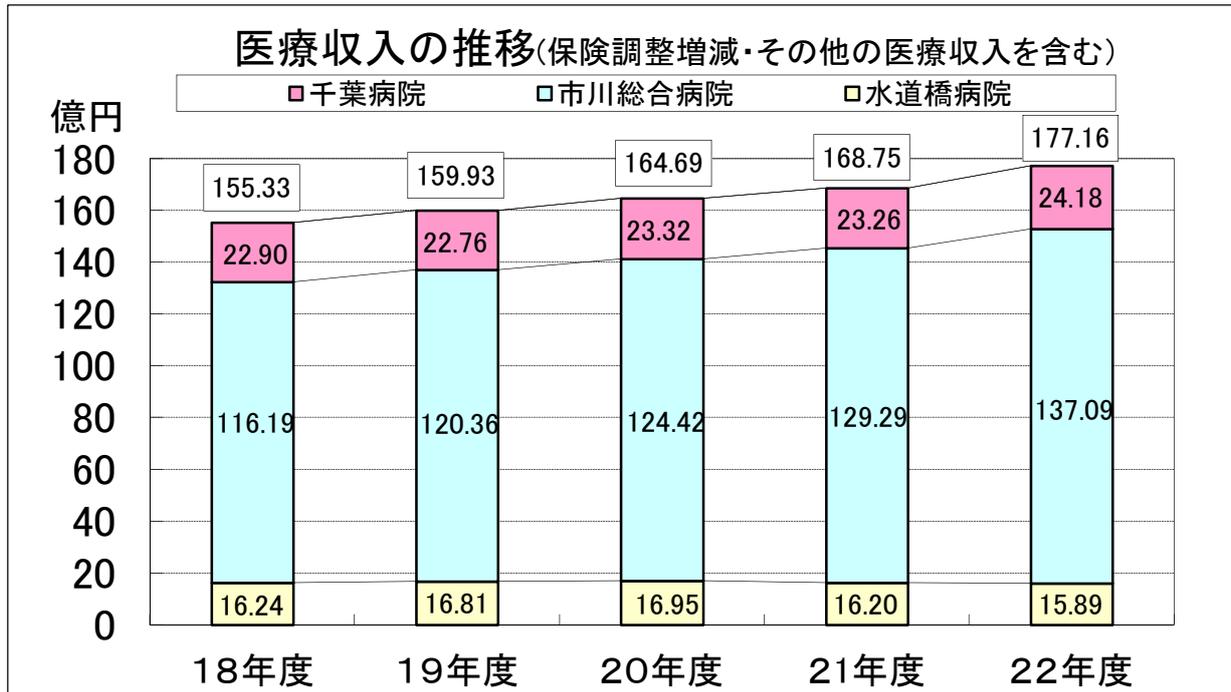
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度予算	22年度決算
大学	805.0	811.0	810.5	810.0	820.0	819.0
大学院	156.0	160.0	148.0	140.0	162.0	160.5
専攻生	29.5	26.5	30.0	27.5	26.0	29.0
臨床専門専修科生	47.0	65.0	78.0	91.0	85.0	87.0
一般専修科生	43.0	30.0	28.3	26.0	16.0	25.0
特別聴講生		10.0	17.0	17.0	10.0	10.0
歯科衛生士専門学校	135.5	135.0	133.5	133.0	133.0	133.5
計	1,216.0	1,237.5	1,245.3	1,244.5	1,252.0	1,264.0

※ここでの学生数は、学生生徒等納付金から出したものであり、学校基本調査の値とは異なる。

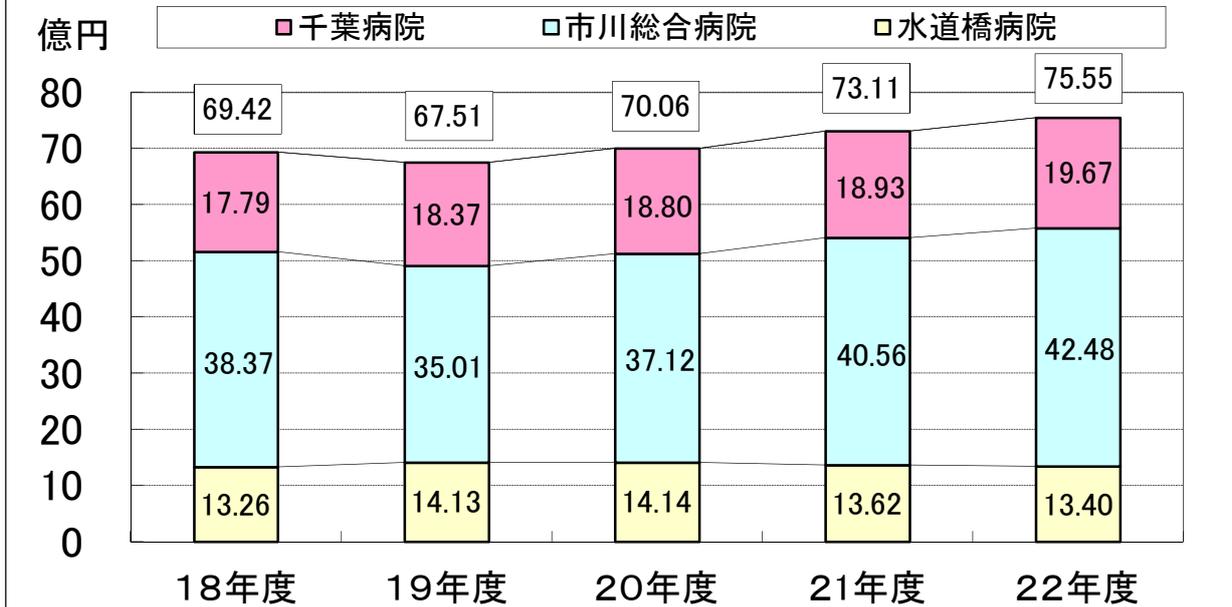


大学で学納金変更があった19年度に比べ、22年度は2億7,300万円増となっている。学部学生は8名増である。

⑥ 附属病院医療収入推移グラフ（歯科衛生士専門学校を除く）



外来収入の推移



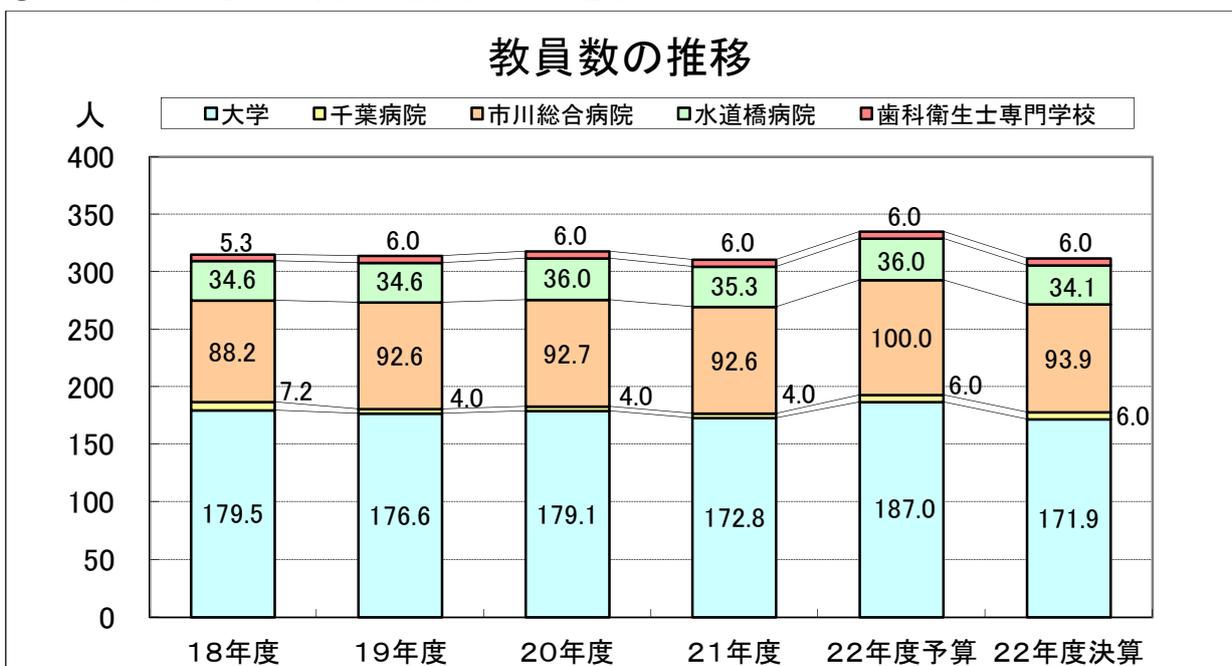
3月の大震災の影響で、各病院の患者数は減少した。

千葉病院…診療単価増により、外来収入が徐々に伸びている。

市川総合病院…診療単価増、入院患者増により、入院・外来とも収入が徐々に伸びている。

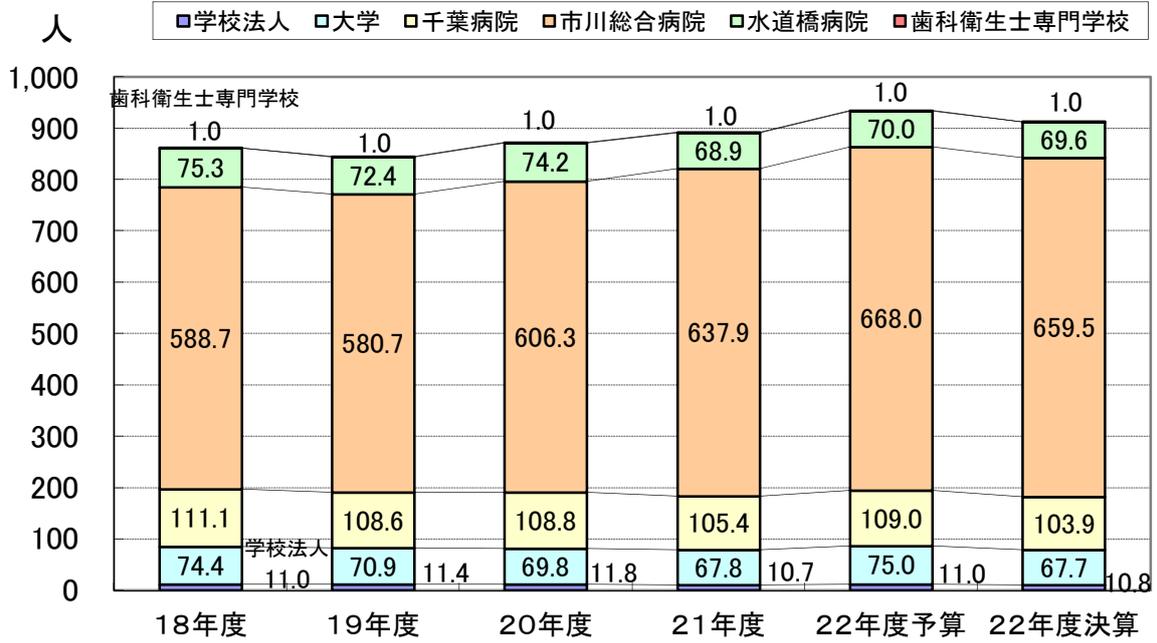
水道橋病院…自費診療の割合が高く、診療単価がやや減となり、入院・外来とも前年をやや下回った。

⑦ 教職員数及び人件費（消費支出）の推移

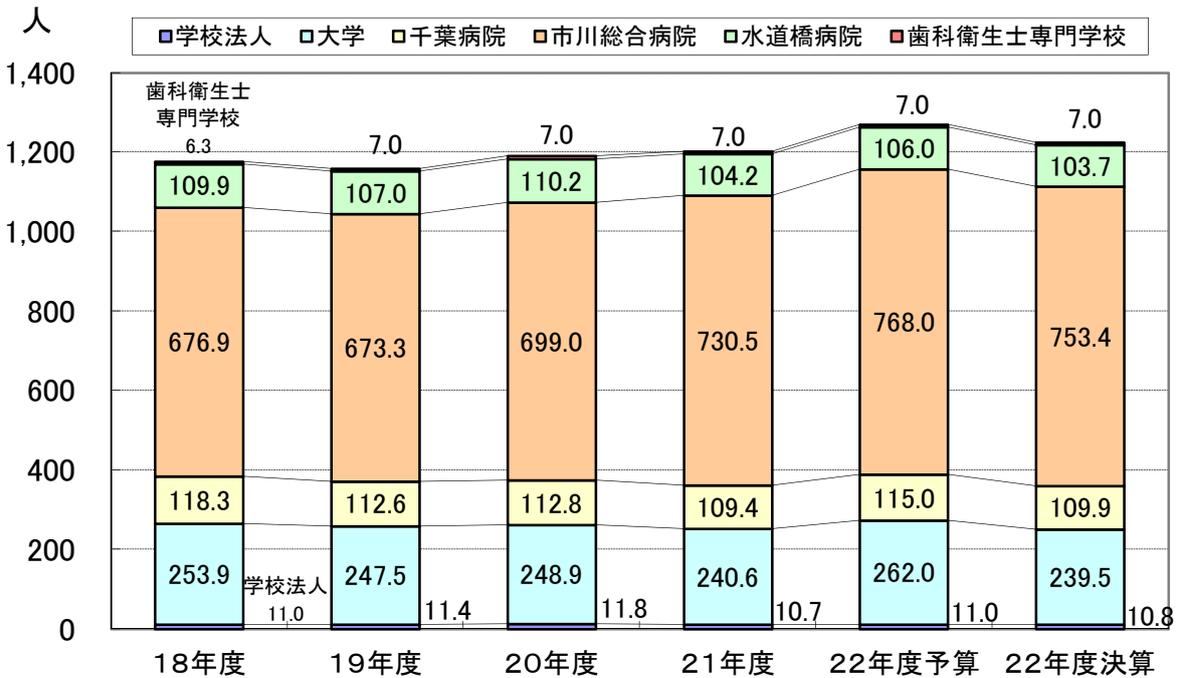


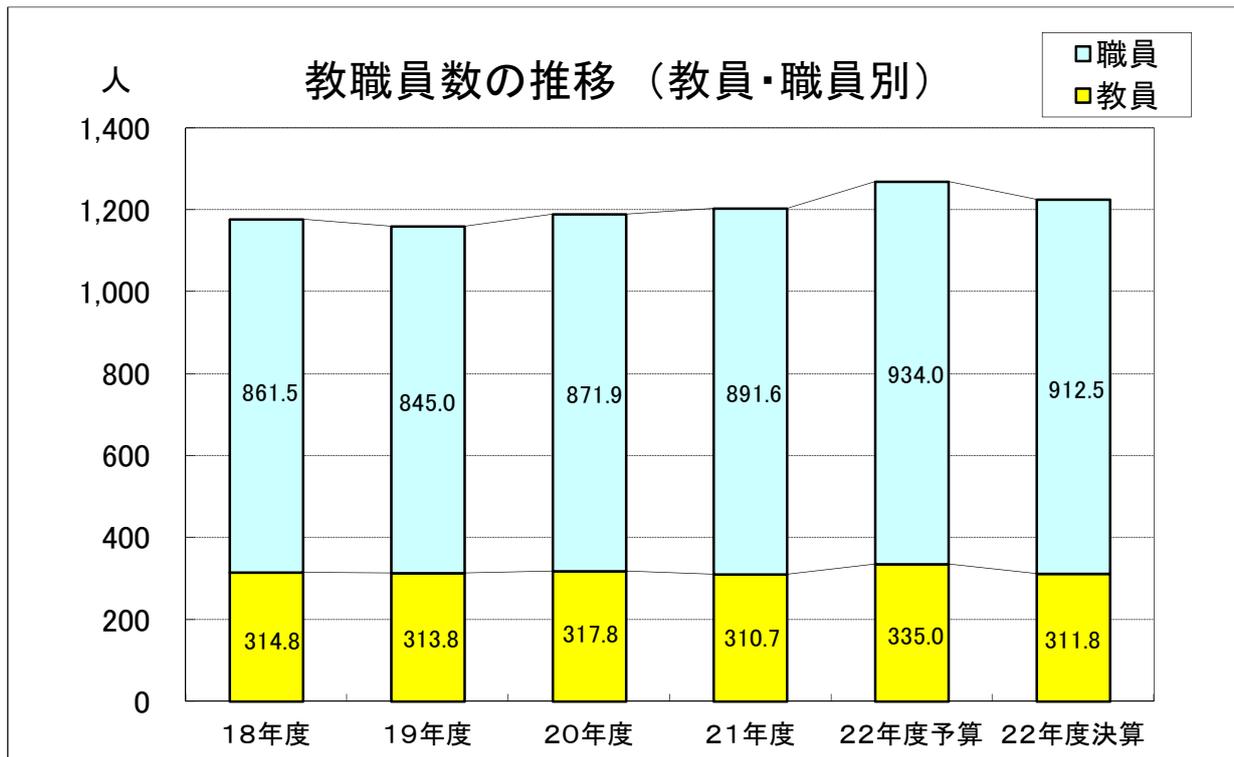
※千葉病院教員は、病院の教員人件費対象者を除き大学に含む。 ※充足人員で表示。

職員数の推移

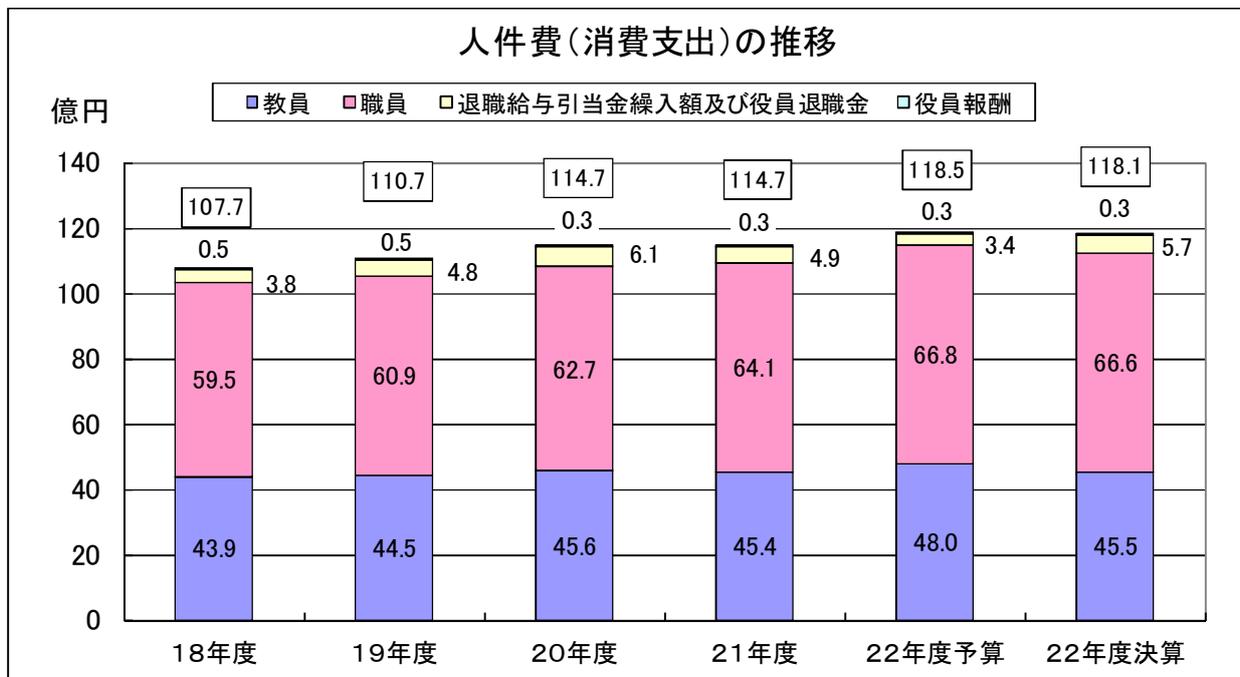


教職員数の推移（施設別）

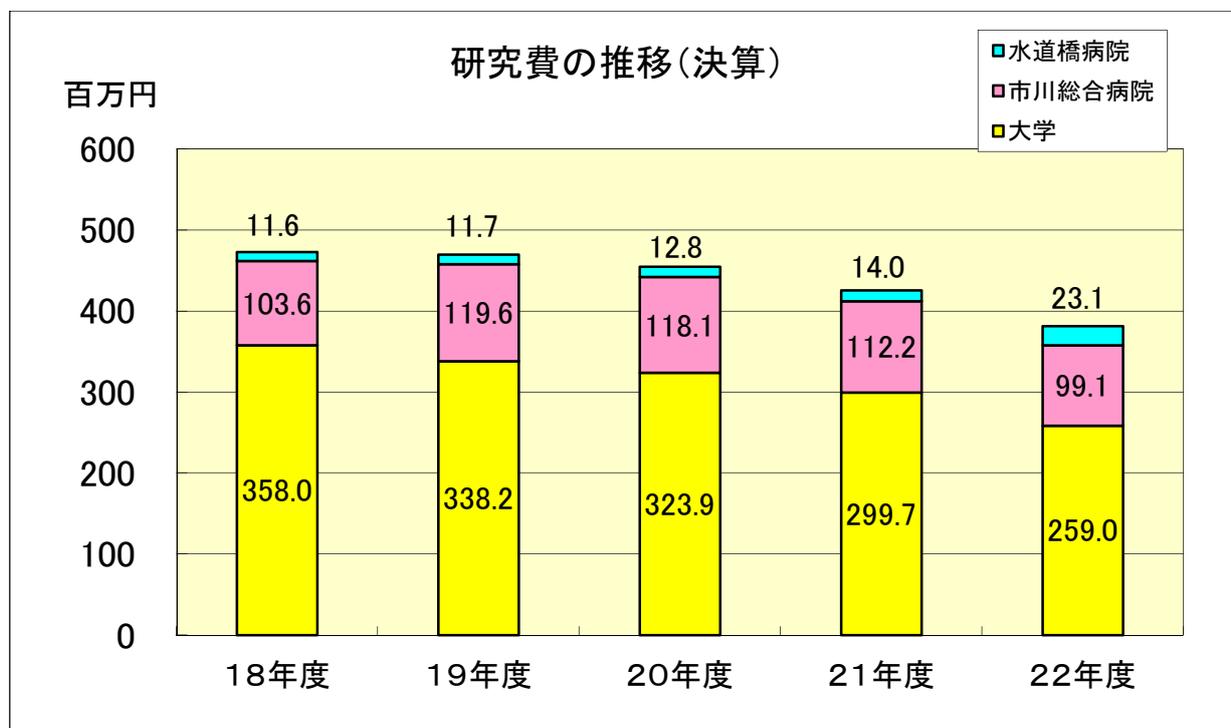
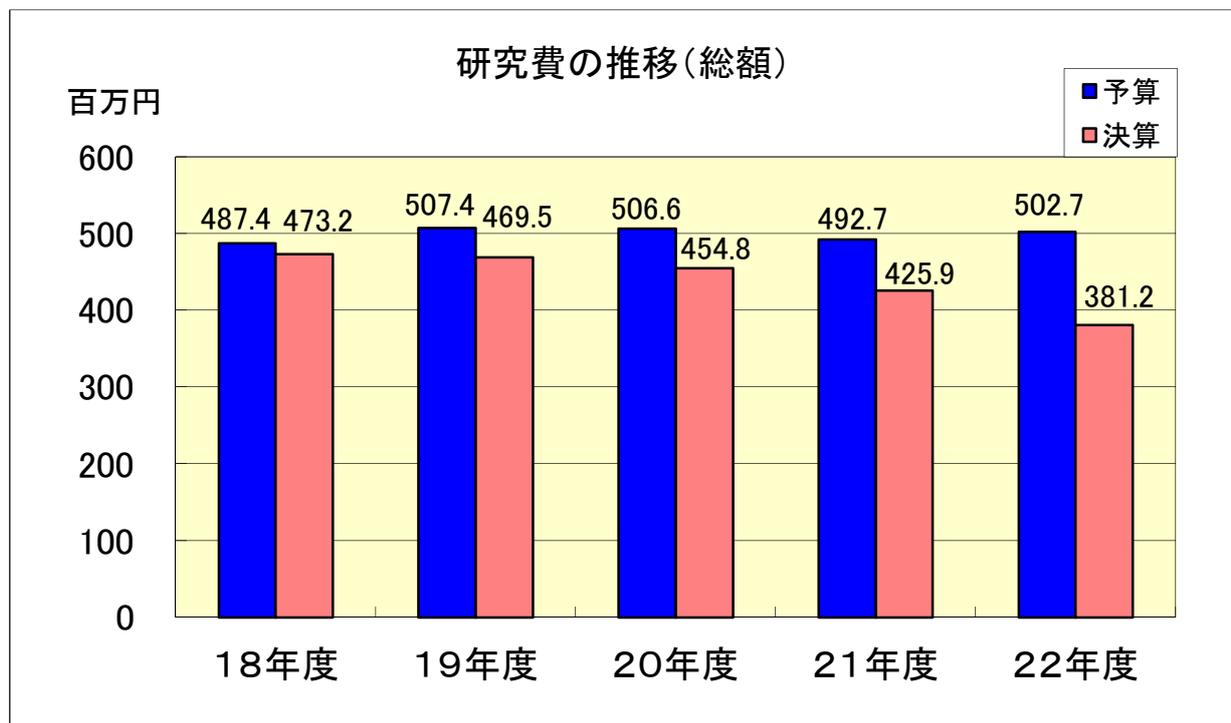


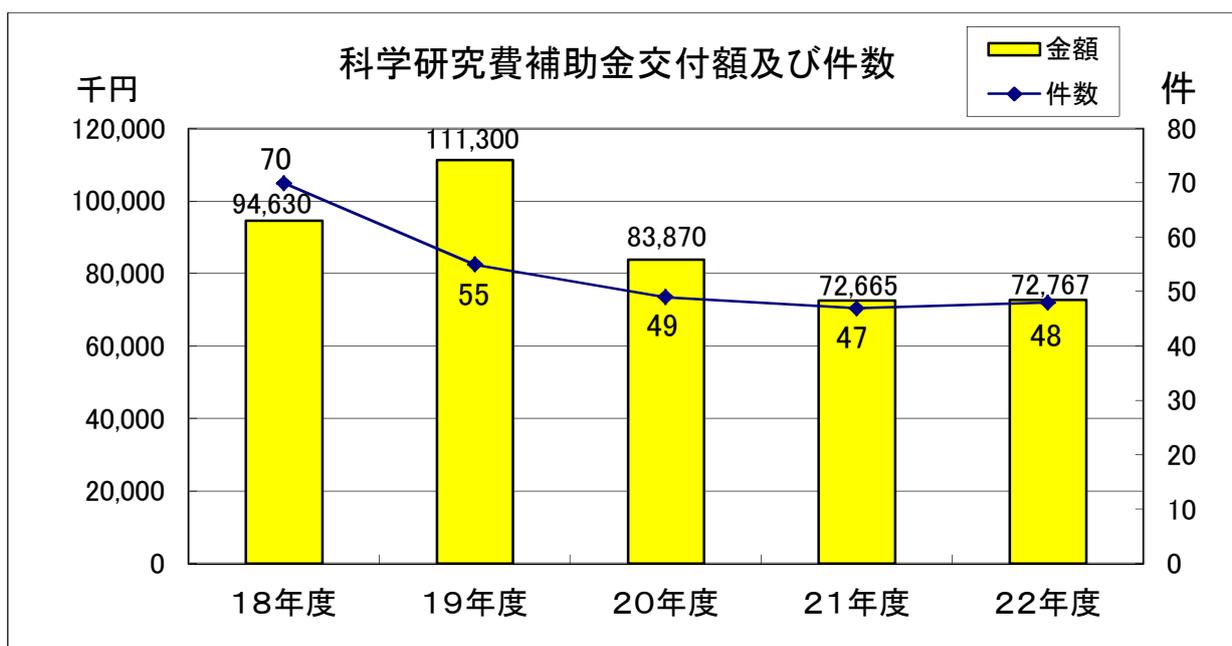
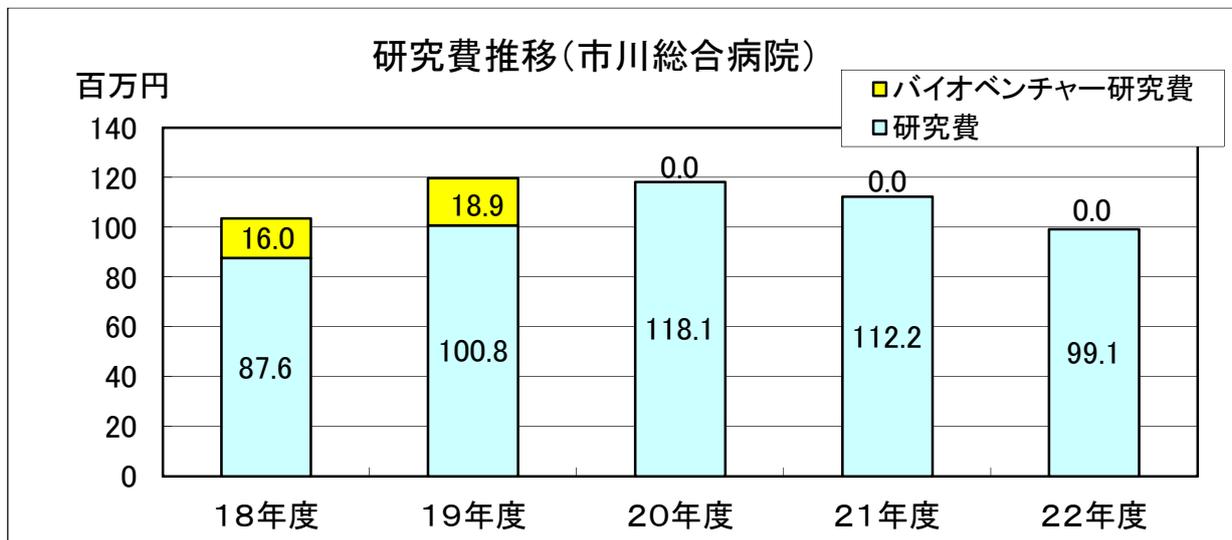
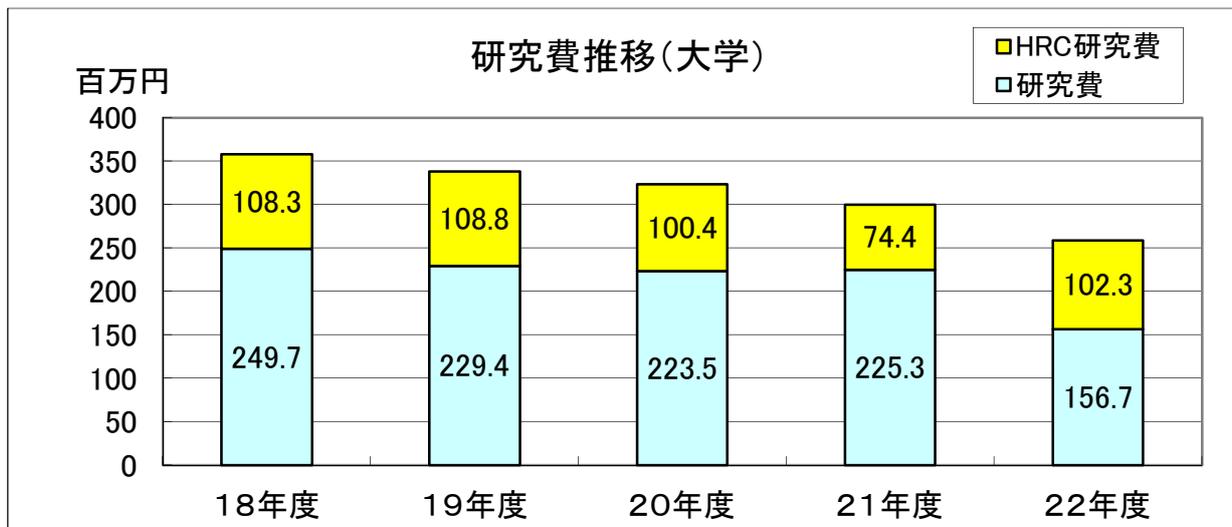


教職員数のグラフは年度ごとの教職員の充足人員を表している。市川総合病院の医療職員が増加しており、それに伴い職員人件費も増加している。



⑧ 研究費の推移





(5) 収益事業会計

1. 営業損益の部

TDCビルのテナント退去後の空室階を収益事業から学校会計に移管したことで、収入・費用ともに前年度より減少している。

(1) 営業収益

不動産賃貸収入のうち建物賃貸収入は、予算より500万円増の3億6,200万円となった。土地賃貸収入は、予算より1,700万円増の2億6,300万円となった。

(2) 営業費用

一般管理費は、5,800万円となり、予算を3,700万円下回った。租税公課は、対予算3,300万円減となり、1億1,600万円となった。

減価償却費は、予算より5,600万円減の5,400万円となった。

2. 営業外損益の部

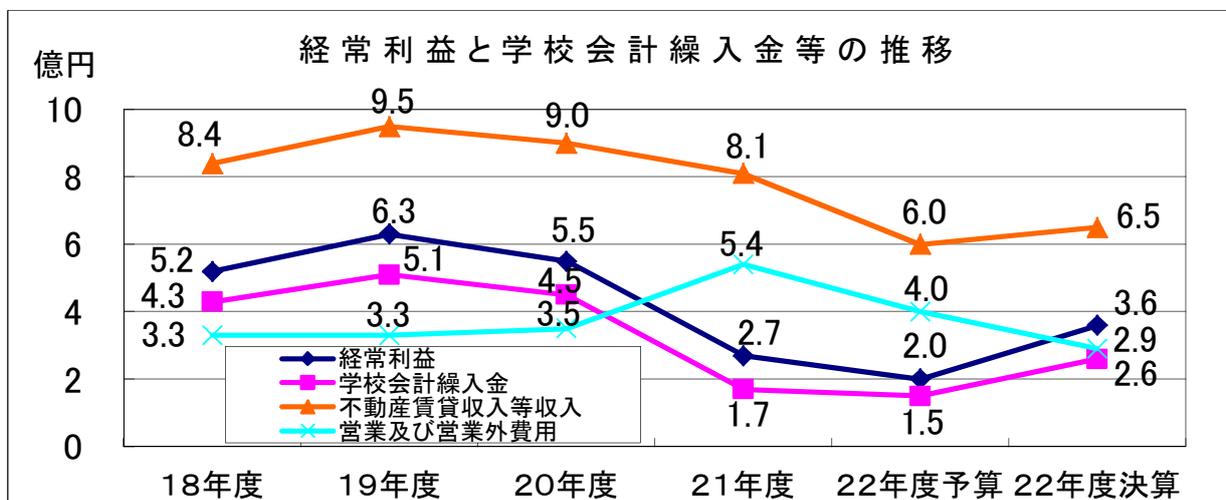
(1) 営業外収益

雑収入は、既存ビルテナントの光熱水費受取分を計上した。

(2) 営業外費用

雑損失は、サンコービル退去テナント立退料を計上した。

以上により経常利益は、3億6,000万円となり、予算より1億5,800万円増となった。学校会計繰入金は、予算より1億1,000万円増の2億6,000万円を学校法人会計へ繰入した。法人税・事業税は、見込額で計上した。以上の結果により、当期利益は、2,300万円となった。前期繰越損失を加算すると、当期末処理損失は、1億4,200万円となり、累積損失は、徐々に縮小している。



収益事業損益計算 ー予算との比較ー

(単位:百万円)

科 目	平成22年度予算	平成22年度決算	差 異	平成21年度決算	増 減
1. 営業損益の部					
(1) 営業収益	603	625	22	807	△ 182
不動産賃貸収入	603	625	22	807	△ 182
(建物賃貸収入)	(357)	(362)	(5)	(548)	(△ 186)
(土地賃貸収入)	(246)	(263)	(17)	(259)	(4)
(2) 営業費用	354	228	△ 126	306	△ 78
一般管理費	95	58	△ 37	30	28
租税公課	149	116	△ 33	159	△ 43
(固定資産税)	(130)	(97)	(△ 33)	(131)	(△ 34)
(事業所税)	(1)	(1)	(0)	(1)	(0)
(消費税)	(18)	(18)	(0)	(27)	(△ 9)
(延滞税・加算税)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
減価償却費	110	54	△ 56	117	△ 63
営業利益(1)-(2)	249	397	148	501	△ 104
2. 営業外損益の部					
(1) 営業外収益	3	22	19	5	17
施設設備利用料	0	0	0	0	0
受取利息・配当金	0	0	0	0	0
雑収入	3	22	19	5	17
(2) 営業外費用	50	59	9	231	△ 172
雑損失	50	59	9	231	△ 172
経常利益	202	360	158	275	85
学校会計繰入前当期利益	202	360	158	275	85
学校会計繰入金	150	260	110	170	90
税引前当期利益	52	100	48	105	△ 5
法人税・事業税	36	77	41	48	29
当期利益	16	23	7	57	△ 34
前期繰越損失	160	165	5	222	△ 57
当期末処理損失	144	142	△ 2	165	△ 23